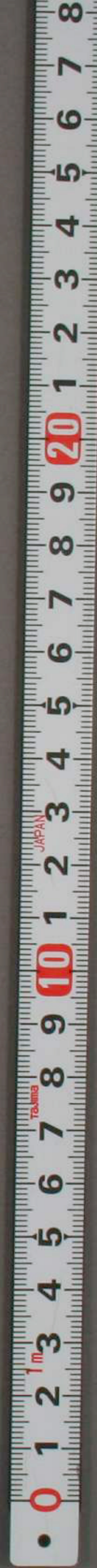
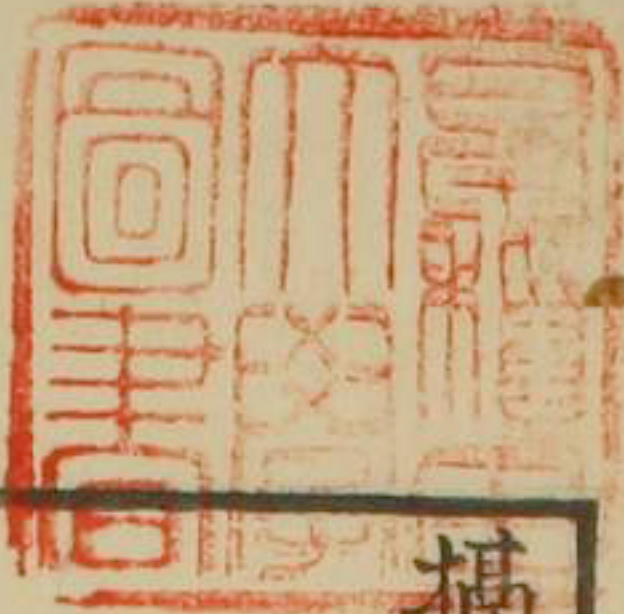


攝津名所圖會

大坂部四上

ル 4
3651
4





捕津名所圖會卷之四

目錄

- 大坂之獅 難波津
- 浪速男 かに女
- 大江浦 御津
- 系橋 川崎御宮
- 大將軍社 蛭見祠 滿末社
- 天満系 免餓野
- 朝来池 寶珠院之滿宮
- 宗因墓 天満菜蔬市
- 狹谷山 不初堂
- 巡禮殿 護摩堂 無名堂
- 落天神 愛深堂 初天海
- 眼神八幡
- 難波里 難波神社
- 大江橋 有樂三井
- 坐摩神社 神主境内鎮宅靈符祠 滿末社
- 浪花人 大江屋
- 大江屋 鉾流寄
- 天満天神宮
- 日羅塚
- 輕子祠
- 梅家
- 大融寺
- 堂岩布 不出
- 五の井
- 龜松 額 巡堂
- 小聖天神
- 神明宮
- 興正寺
- 明星池

昭和廿三年九月廿三日購求

大江坂鳥渡 同 高田急所
樓屋敷 呉服屋
御靈社 佛光寺懸所
津村御堂 二尊堂
難波御堂 對面所
難波仁德帝社 桑太殿
難波茶師 現成化蹟
三津寺 藥師堂
醫生見宜堂 朝日神明
庚申塚 寺岩清水
梅之橋 高臺御哥論
日本橋 二ツ井
戲棚梨園 名呉町行廬

四橋 煙管肆
雜喉場
新町傾城廓
堀江市之側
愛深堂 金茶師堂
敷津浦 博勞洲
諸侯船 安治川
河口 一之洲
難波沖 難波浦
浪速道 難波直
難波五柏 斤葉芦

石濱 敷屋町龜糸
和光寺 御光寺
瑞見山 大佛岩
漆標 難波江
柏關

永代濱十筋市
新町橋 新國寺井
白洲寄 阿彌陀比
材本市 御船舎
潮見櫻 難波海
浪花水門 樓岸

井上

飛禽舖 虎屋春蘭
芭蕉終焉地 貞柳蹟
順慶町夕市肆 講中長屋
梅檀本 油懸地藏
茶湯地藏 聚樂館古蹟
寶泉寺 辰相親者
頰燒地藏 高津社
上小竹葉野 道頓堀
檜披戲場 哥舞伎樂戶
名呉町裏景 難波新地大相撲

内平堂町神明 大世屋車
飛禽舖 虎屋春蘭
芭蕉終焉地 貞柳蹟
順慶町夕市肆 講中長屋
梅檀本 油懸地藏
茶湯地藏 聚樂館古蹟
寶泉寺 辰相親者
頰燒地藏 高津社
上小竹葉野 道頓堀
檜披戲場 哥舞伎樂戶
名呉町裏景 難波新地大相撲

高津社 本社
道頓堀 末社
哥舞伎樂戶
難波新地大相撲

高津社 本社
道頓堀 末社
哥舞伎樂戶
難波新地大相撲

福四一

攝津名所圖會卷之四目錄





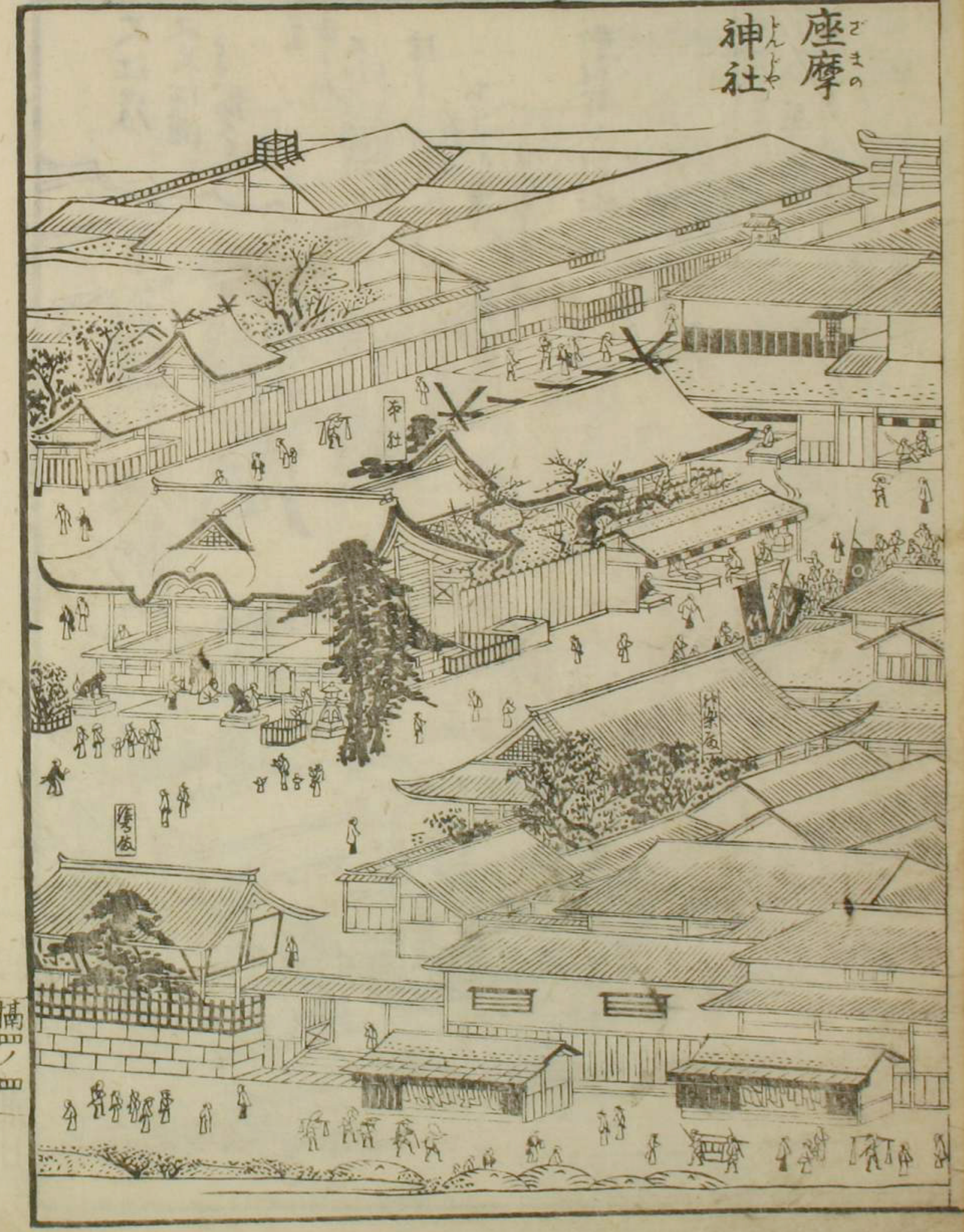
井上



新亭
 とは人の
 福のひと
 みゆれ
 清風や
 ん涼しさ
 ちその
 喜ぶか
 美人ちん



座摩
 神とんや社



攝四ノ四

大坂といふ号上古園に按ずる大坂の畧訓大坂難波江の一名ありて
 仁徳天皇第一皇子と大江伊耶本和氣命と申受禪の後 姓附大坂の
 號初々園ゆ今時金城より南一堆の丘山ありて大坂の畧也古語も多々
 谷所坂町の名は明應の頃遠如上人の文章小攝州
 東生郡生玉庄内の大坂とあれ其頃封境産さめありて今も
 昔も大坂 上古道長令當國の造りて 景行帝の御宇も大坂
 武日連 允恭帝の御時大伴室屋大連社稷と輔翼一叛賊星川皇子
 と平け 顯宗帝と大嗣小孫も國人收束平浪か一之寶年中大伴安營
 老老小之伴牛養和銅大伴旅人太伴守天守大伴大表大伴
 家持等次第領下自然と大伴の名蔓々大伴の御時大伴或大伴
 の御津の泊とも稱す 上古園の御郡ありて大伴の御時大伴
 氏も盛りて 其領主の古蹟大坂の園府町と 大坂の御郡ありて
 大坂の御郡ありて 天正中顯如上人の石山御堂退去の後豊太御時城と當り
 可なりん

萬國の列度藩屏と千門と開く交易の賈人四衢に滿ち繁栄とあり
 金城の御ありて金城水涌出不易と稱する名園初々四海の信穩ありて枝と
 あらみ御代ありて諸島の米穀材石及び和漢の雜貨ありて朝の市あり
 の市街繁々一實日本都會の要津と稱す縦横四衢の賑はる海内冠と
 仁徳紀御製ありて佐豆磨能 難波の中地あり 避女能上烏瑠多小坂あり
 ありて大坂の因ありて縁と稱す可なりんや

皇明實記卷之廿一云

丁酉萬曆二十五年二月復議東征時封事已
 壞而揚方亨詭報去年六月十五日從金山渡
 海九月二日于大坂受封即以四日回和泉州
 然倭責朝鮮王子不往謝留金山一如故下畧

難波津 大坂の舊号ありて郷名ありて 順和名ありて 谷町の東に
 東生郡以西瓜西成郡と一説小東様と稱す 中興といふ名ありて
 北の方と天満といひ北中兼綱郡と一説小東様と稱す 中興といふ名ありて
 海部郡の東に東瓜王造り上野高津ありて土佐坂といふ名ありて
 入江の御別ありて橋板町名記より小原限ありて

大坂町艦ふくむとされてちを畧に

万葉

難波はふみふのちろとあそむるゆゑと今をたぬくも少けし

八世家持

拾遺

難波津とあそぶも川の浦とふ是や世にうと波ふか

業平朝臣

千載

かにははへらめふのそ船をけく船の風はさめかたを

祐躬

新古今

若うれの難波の芦花をのくとゆふ湊子縁啼あり

賀茂成保

北一代集小菟波の和句百二十首あり

難波里

大坂及び東北の村里と

後古

はのうたの難波の里は夕をみ何の志のひ小杖風を吹

信實

風雅

津の園はかほのそやはらうとほうたを歩海士の釣船

光朝

又本

波か難波の里はわづら月をむとそや結ひ並あん

漢門院

攝門院

難波人

日本紀曰仁徳天皇御歌

那珂波壁苦人須儒赴泥船苦羅齊

万葉

難波人芦火くやのそとれと已う妻あそ麻ウ門くた

柿本人丸

後拾遺

浦風や程をわたりあそむ人芦火くや夜う川さり

推保正實

後拾遺

難波人の後をうりも友川のわたりた杖をうて

等持院

後拾遺

津の園廻船の水門を諸州の人物貴となく賤とわく若とかく完

今之原

後拾遺

とかく入交の地をひりひりそとる波道と須忠孝の者市中あり

今之原

後拾遺

粗其名園は元禄七年の頃北新所鉄屋を家不土賣七を湯又本町

今之原

後拾遺

三丁目小平を湯傳を湯のおとひの若元文四年より堀江橋町小いち

今之原

後拾遺

はあ ちやく 初又希 長太希 父太長を湯 羽州秋田通船の居船頭

今之原

後拾遺

あり犯罪の事あり洗小刑小つてと不定りして五人の孝子女の命代らん

今之原

後拾遺

と願ふく遂に父の命を助くさる元文の五孝子と賞を当道とせし

今之原

後拾遺

五年小大満岩井町籠細工徳次希 貨馬之助 南向屋所小籠を賣

今之原

の娘のり 十五才 其母小至孝之天満を丁目播磨を源を清 其妹梅 廿九才 日
才之右 廿二才 日妹と先 廿七才 日才源藏 廿二才 日妹加の 廿九才 日才六人の者孝貞
みく母と接育一室睦友業瓜出精とる年休み異之便小寛政二年の
半同に年より天は南本膳町常陸を治右衛門の娘みむ 九才 其母
海症ありく又傷不及ぶと付くを止し命を助け生涯孝心を怠らば日年
小之満中表町小卒を休を清が下人長き清の主人一忠心を尽し日又年小
西高津新地九所同春八 廿八才 若松 十八才 のおとひの母小事かみ若のぬ
日年小浜辺町の源を清 廿二才 父母小孝心を尽し半際か又日年小立半町
の龜市 十六才 みよ 十一才 のおとひのみか親を愛し至孝之寛政七年
の基幸町卒目勤平が女加の 十五才 業小本綿紋とて十一才の時より
登衣履は出精一孝善跡ありて平世所極を下人若太郎 廿十才
二代の主人小忠勤とて己の母小至孝之あれも日年の基かよ又同時
御比通伊勢を佐を清へ主家公相續とて忠貞嚴之寛政八年の基

播磨阿七

み南坂江鉄屋が家小位一ゆた女 廿二才 母孝を尽しいとみゆと妹成
育之業小怠らざりとかや上件的人物みか 官家の高岡み達一
台令の御寝美とて悉銀若干公賜ふ辺に世の事ありて
委去侍人多し故に其要瓜撮んてまに記次子曰天地の性人
と貴しと人のけりへ孝より大あらかき一明王徳を敷く下を化を
時みふ孝有とて是も従ふ 仁徳聖帝の遺風千載の後まもるも
耀とて是も瓜難波人とて其のありし
浪花男 風俗の美服と好に藤槽と居る為おの交易自在とて正の末 豊太尉
浪速女 風俗の大器京師小御
千載 かにわれをくもて火の下に燃え上つれをたか月々々々
後千 難波女の昔は志のちの志をこれ一よめりも志をやとる
後成

高安三



車樂ハ旧
 海内國譽
 田原
 今ハ左州の
 津島
 舟
 又田原
 其外諸州
 小あつて板
 の車樂ハ
 持小東極
 十二條の車樂ハ
 錦舞と引
 生土の所々
 飛つれ
 其一居る人



車樂
 嘯子

聖應神社

船場の中中央あり延喜式神名帳に聖應神社大月以相堂抄掌
勅額あり伏見院勅額に聖應神社あり又菅公奉納の
真宗より難波大社あり右の勅額に今幣殿あり西成郡の熱社なり此古より一郡
一社の神社なり元來西成郡の生主神の例を六月廿二日九月廿二日多掛神事十一月十六日
祭神 生井神福井神細長井神此三神并神小竈神二座と加へたる神名なり
攝社 田義神社 俗名宮林
末社 多賀祠 壺符祠 大國玉祠 八幡祠 人丸祠
神樂殿 本社あり 繪馬舎 汁樂屋の
本社のあり

拆違社の鎮坐ハ神功皇后十年也三韓より神凱陣より河神武名あり古例
小より河船と浪連の岩浮見石の上よりせく神靈を鎮て齊河河賊女將と
献しこれを多ありせ給く神社之旧地ハ大月岩田義修今の河旗所也
孫云貞觀元年正月從四位下と授く同年九月八日攝津國難波大社神等遣
使を幣為風雨初之云延喜式云凡聖應巫取都下國造氏童女七歳已上者充
之若及婦時充替云其外論旨諸齋神教者祈預吉家附伏等神庫又
祇む又難波大社の河鎮座ありゆふ社の南に難波所と云傳く社務の
任所の少な渡辺所といふ夏後の神事ハ神樂と河旗所(渡)と本居の石氏

攝四ノ九

おとひく遠物と申し壯麗なる奈式の特ハ河社ハ難波市街
繁花の中ねれおふ俗人多く市店社者小連る芝居觀物ありと
賑しくされ皆神徳の餘光なり

御旗所

石所ハ河津所あり其名石所河津の名ありされ皆むの河津所ありすつて
の多あり毎歳六月廿二日神樂と社内の神事ハ神樂執行者佐古の遺風也

大江岩

古舟の山に横たわり大月橋南川今の八軒家の傍あり是より南乃方
ハ一橋二名ありハ軒屋といふ八軒舎ハ家はありと系傳の上ハ
おととかく益とわく入船出船ありと嘘しけ地都く夏の夜ハ
ぬふし風土の音と

御旗所

石所ハ河津所あり其名石所河津の名ありされ皆むの河津所ありすつて
の多あり毎歳六月廿二日神樂と社内の神事ハ神樂執行者佐古の遺風也

つこのや大月の岩をせりしと雲井又見ゆる生駒ふりか
良蓮法師

船の勢もおとる成りたり大江の岩乃をみされの江
長俊

大江浦

平瀬波着圖六面と訓持そふ大江の浦なり
隆法法師

玉藻の大江の浦は風をばくしの花を散ぬを
後人考

御津

皇居の津あり河津といふ地ハ大坂より往者不到る津也
三津御津の右津あり又高津御津難波津と三津といふ俗説也

古事記 仁徳 天皇者 憎八田若 而晝夜 戲遊
中畧 於是 是太后大 恨怒 載其 御船之 御網 拍者
悉 投棄 於海 故号 其地 謂御 津前也

万葉 大伴の津津の濱あり 忘れ貝のふあり といふは 其の事也

古今 押照や難波の三河小焼陸のつとくも 如く老すけるの事

法雅 難波津とくみまきみの浦毎ふこれや 世にみゆる船

新古 いまももそや日本 大伴のみ川の濱松まらこひぬらん

後古今 心あらん人のこめとや 履むらんかふはのこはのまれの郎

王業 老の信あふまのうある君の代とて 此をまて三河乃濱風

倭拾遺 松まらこ三河の濱 此まよ子まひくの事す 乃や付ける

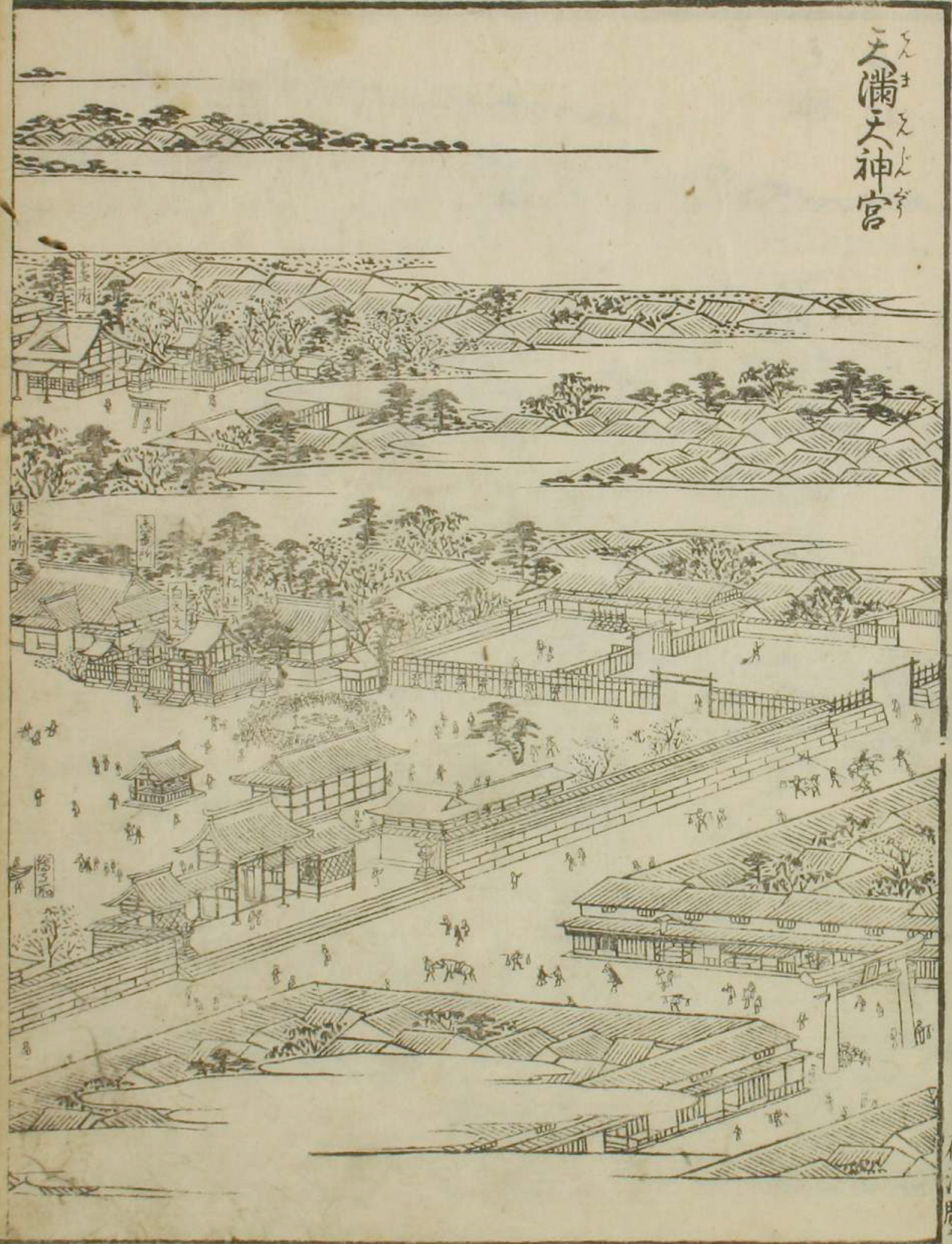
新千 立田の夕詔書ぬ大伴乃三河 此泊す年や移らん

去本 林の敷いれ移あひく大伴の三河の泊そ 夜う川らん

日 三河の浦小玉藻やうたぐ海士人もうのこ 神いぬれは

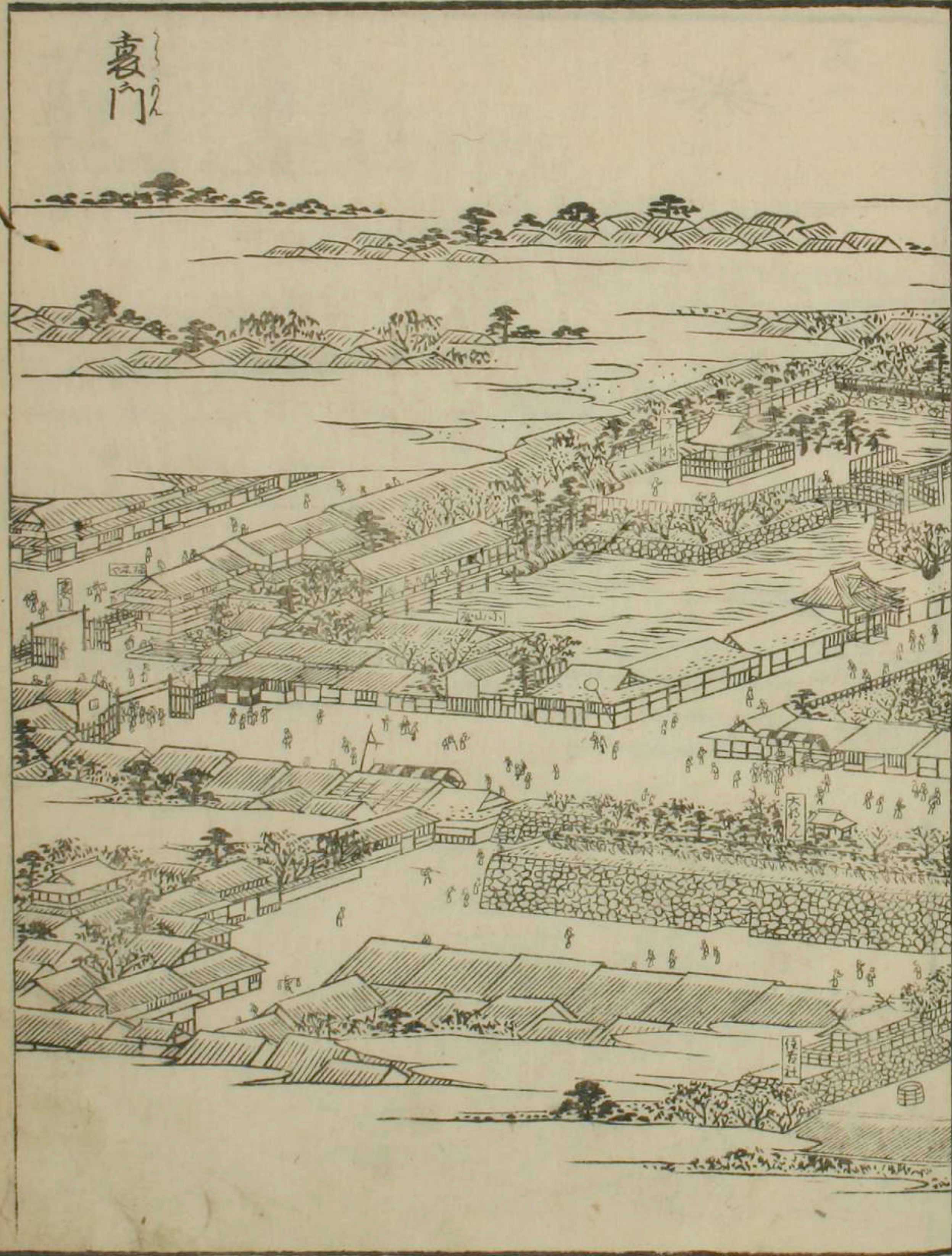
其の巻いづまそ三河のうらみあ の若葉とあはぬ白波

三河大満天神宮

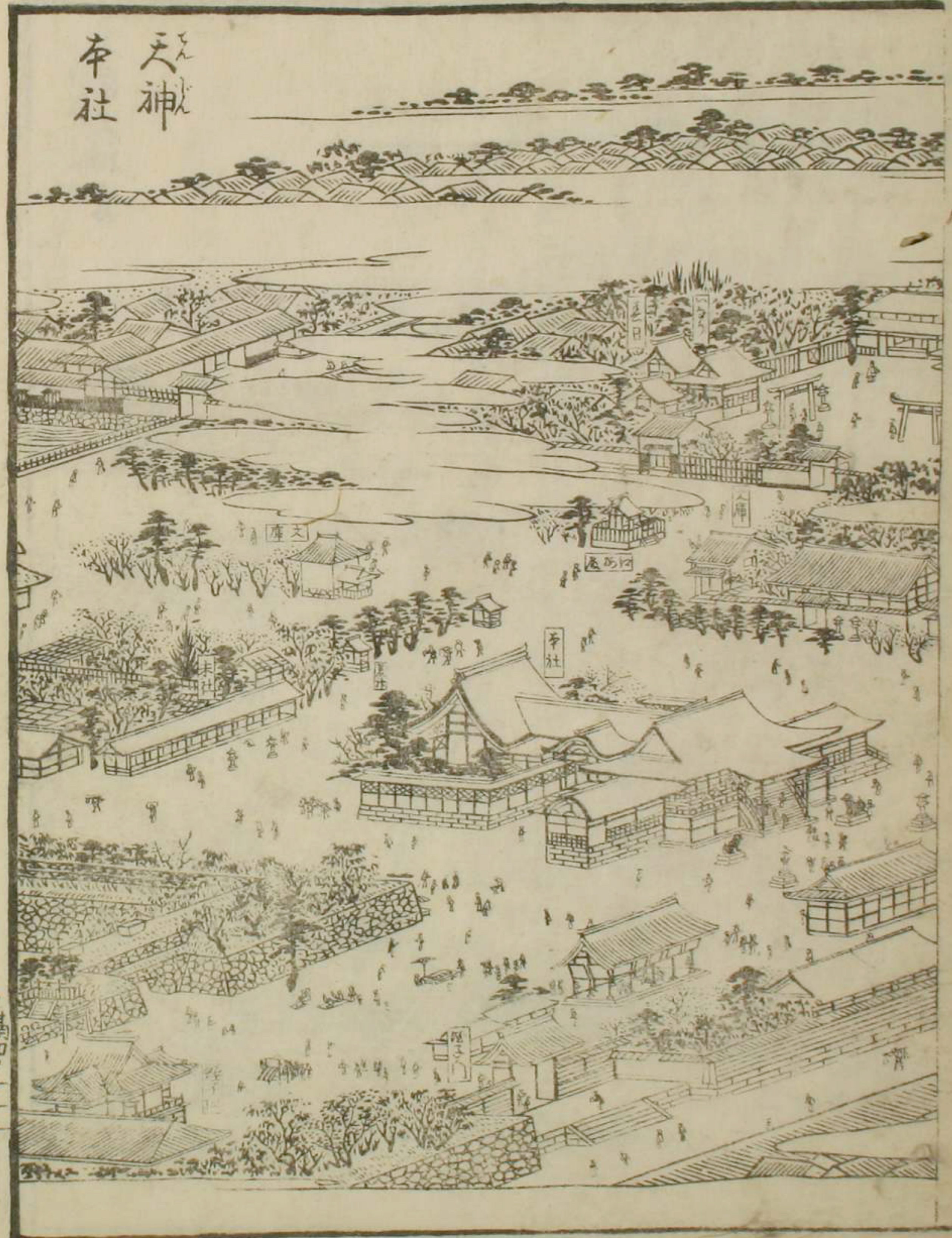


伊豆影

裏門

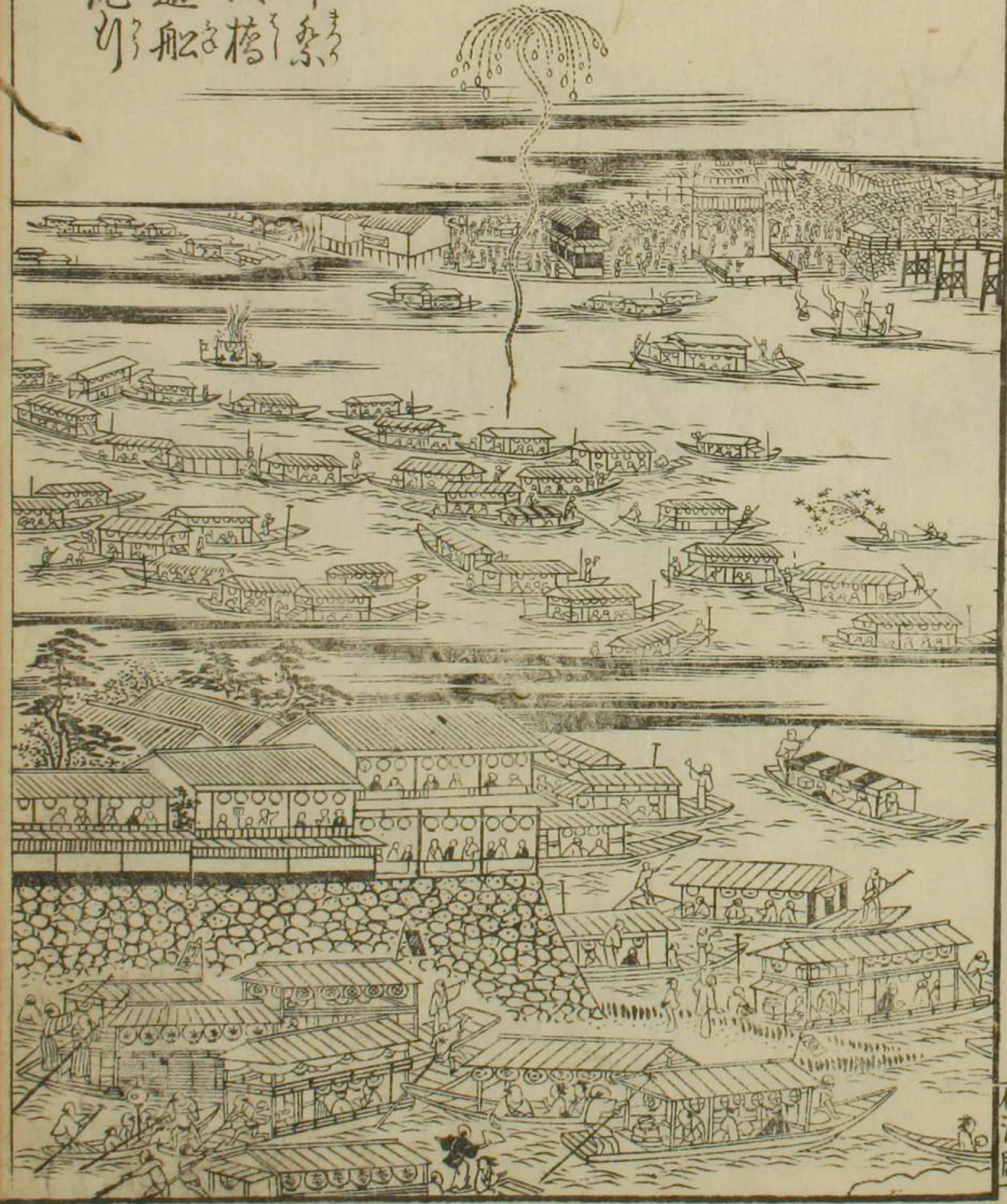


天神
本社



天之神
 波之橋
 遊之船
 夜之遊
 花之遊

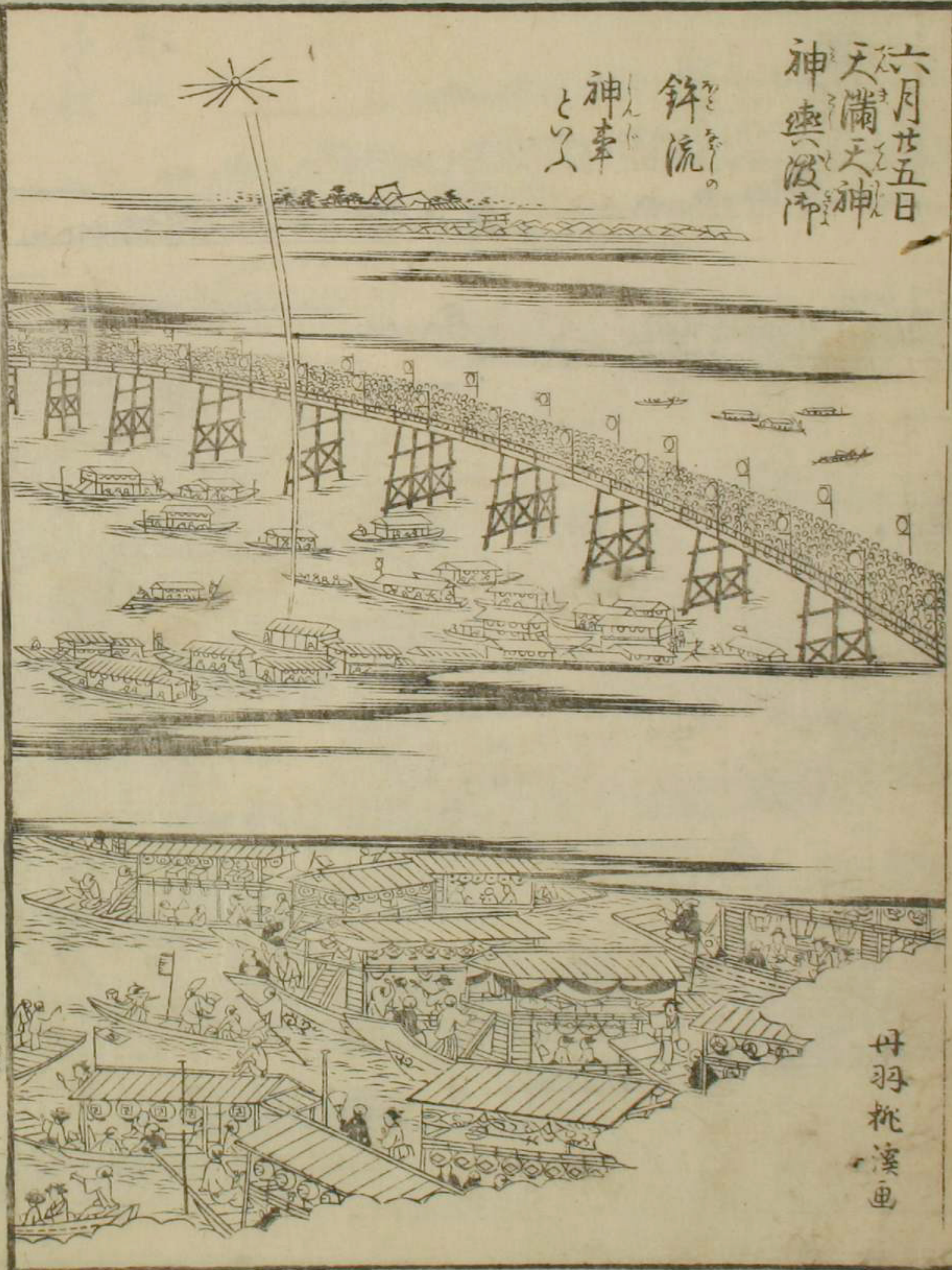
其
 一



伊澤彫

六月廿五日
 天満天神
 神樂波市

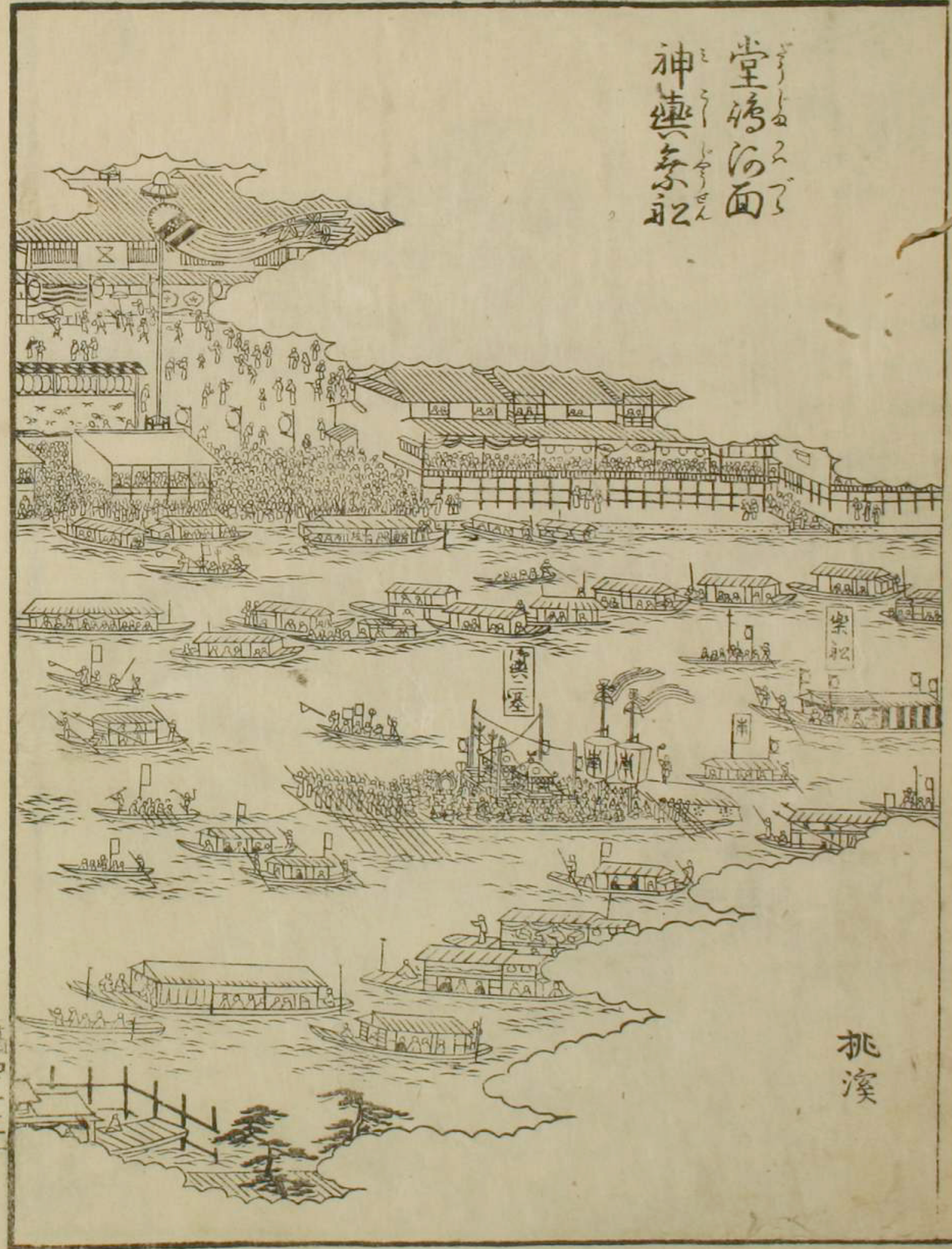
鉾流
 神幸
 と久



丹羽桃溪画

攝四十二

堂橋河面
神樂系祀



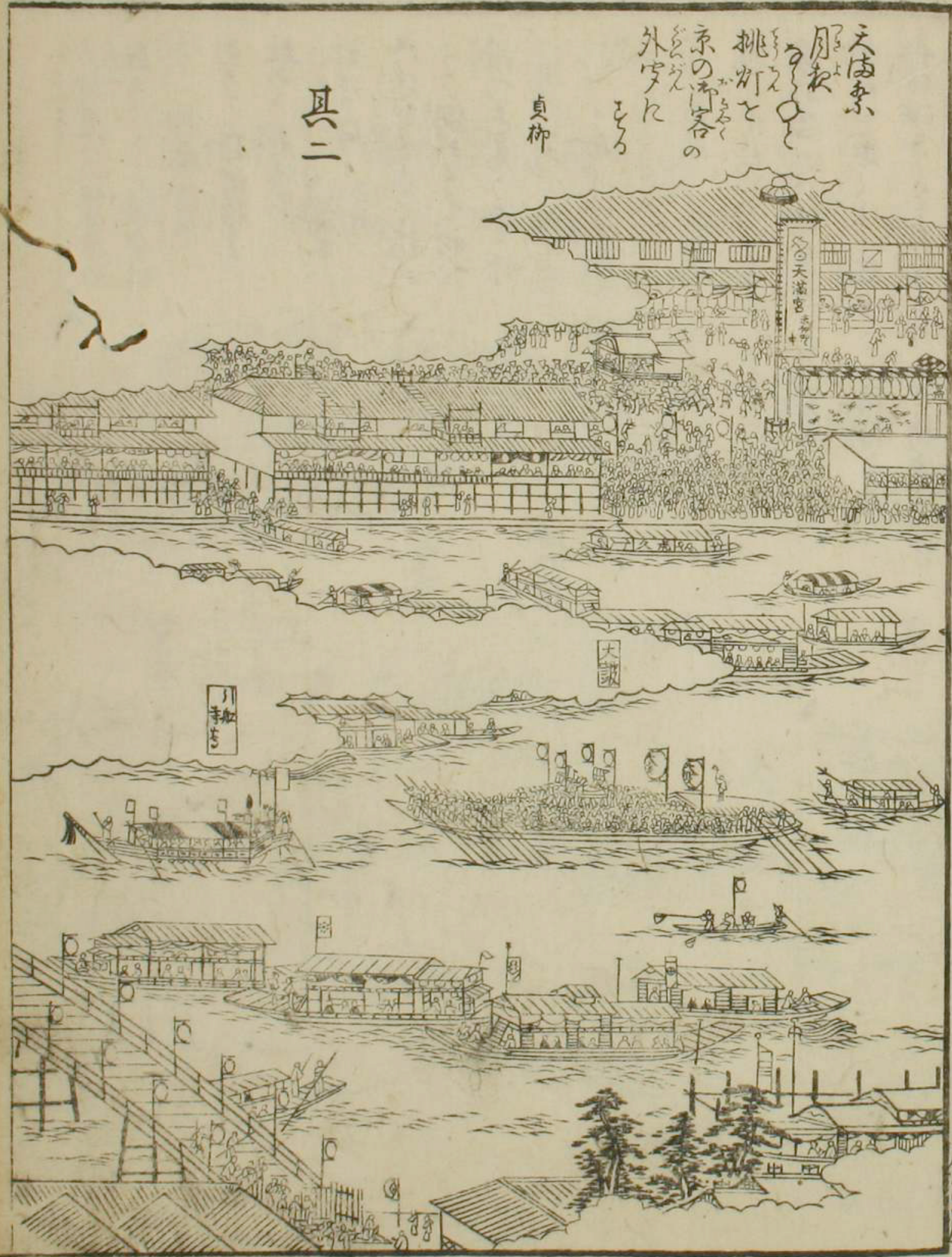
批溪

攝四十三

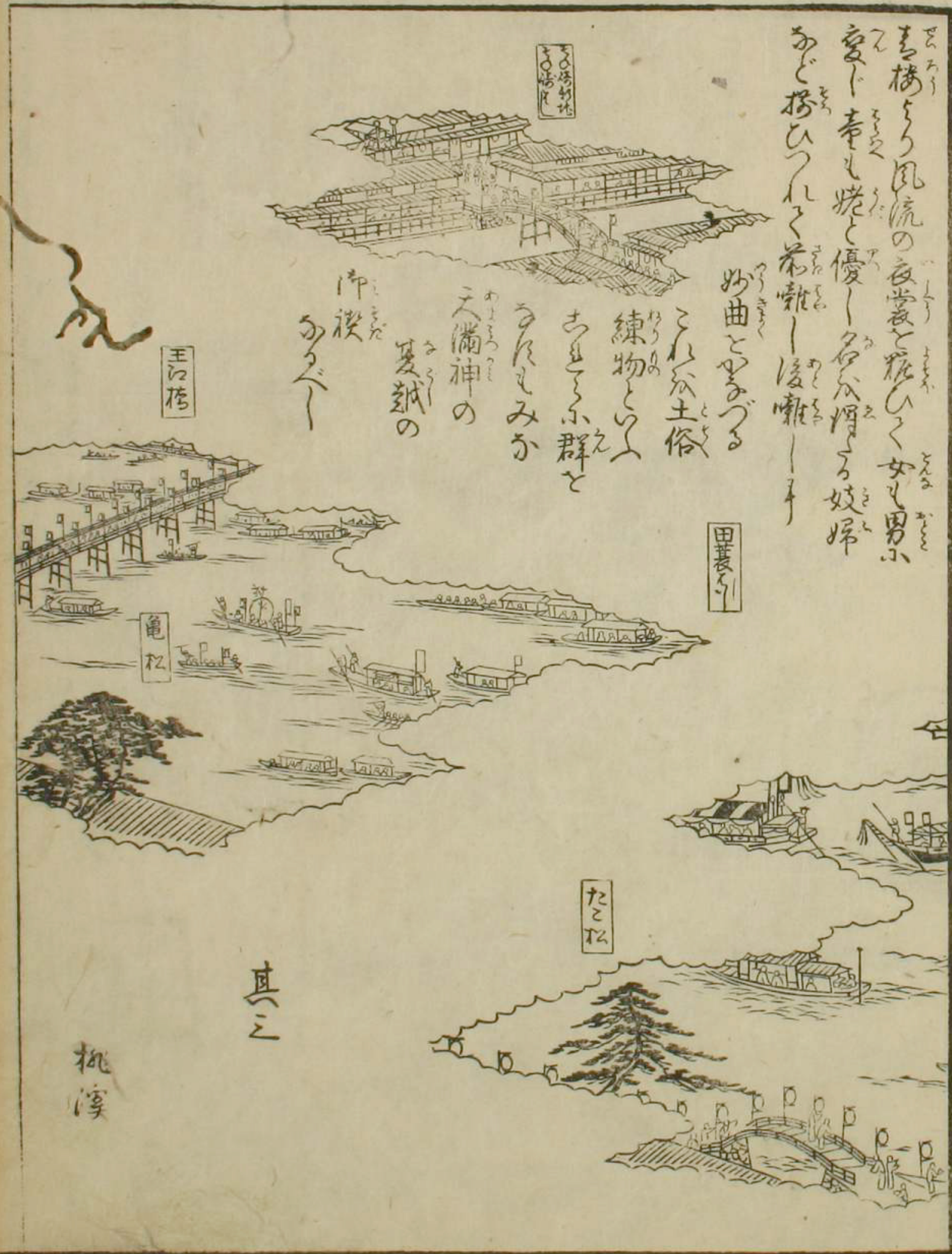
天橋系
那衣
挑がと
京の河各
外穿た
ころ

貞柳

具二



伊澤彫



其の橋より風流の衣裳を脱いで女も男も
 夏に奉り焼く優り各々河を渡る妓婦
 あり橋ひつれは若衆一後継一子

此の土俗
 練物といふ
 是れは小群と
 言はれしのみか
 天満神の
 夏紙の
 節候
 ありて

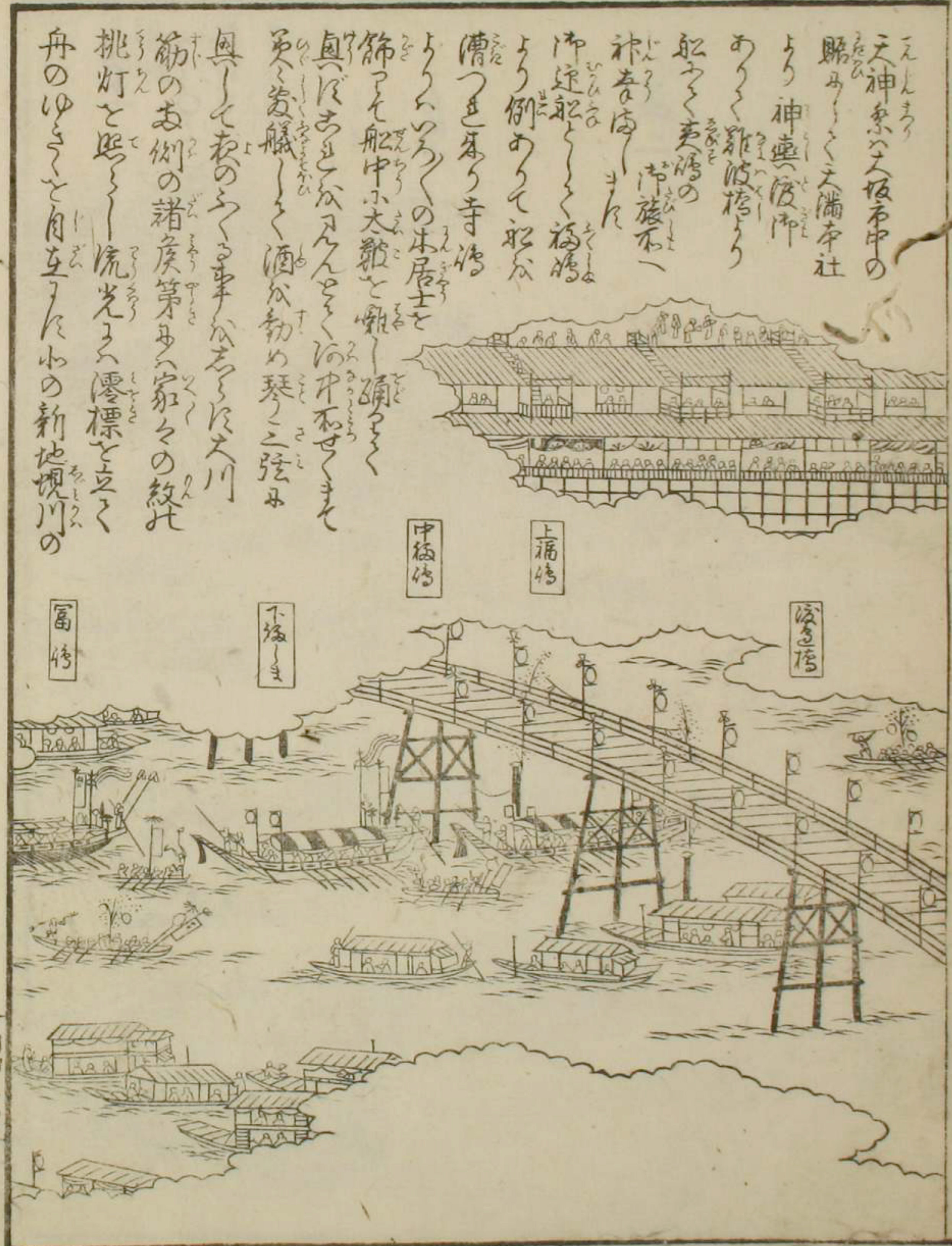
田舎

たの松

其二

橋渡

伊澤彫



天神系の人坂市の中
 賜みく天満神社
 より神樂儀節
 あらう難波橋より
 船々々美濃の
 津を南へ
 津途記々々福徳
 とう例あつて船々
 備つて是より寺橋
 りらわりの本居土を
 飾りて船中小太鼓と船一踊々々
 真のまはるか入んぞと河の中をせまて
 更々發儀々々酒分初め琴三弦也
 真々々表のふく事かをるは大川
 筋のお例の諸度第第一家々の紋此
 挑灯と照々々流光々々櫻標と立々
 舟のゆ々々と自在々々水の新地堤川の

松橋

上橋

中橋

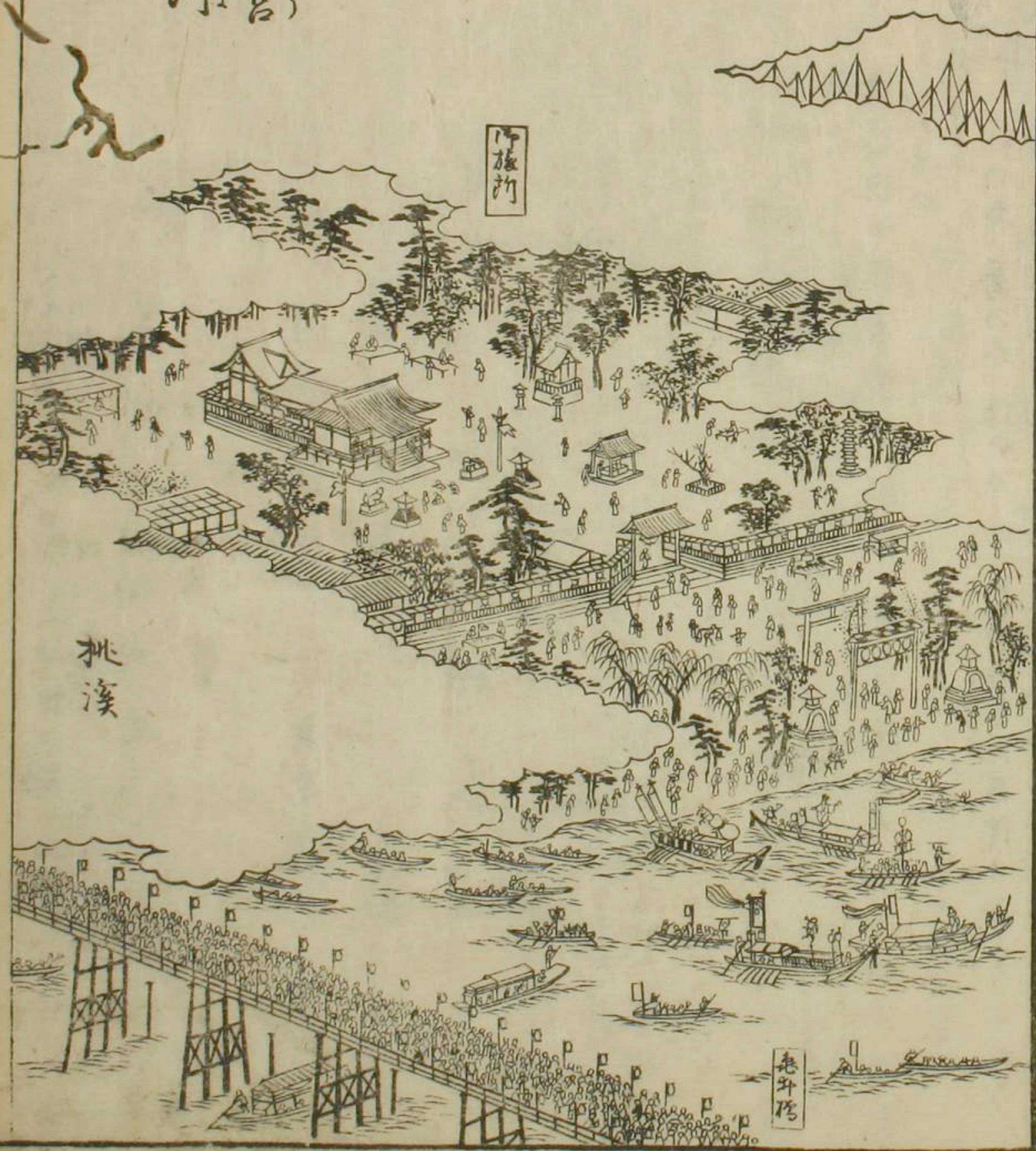
下橋

富橋

橋四十四

我鳥
文滿宮
御旅所

其四



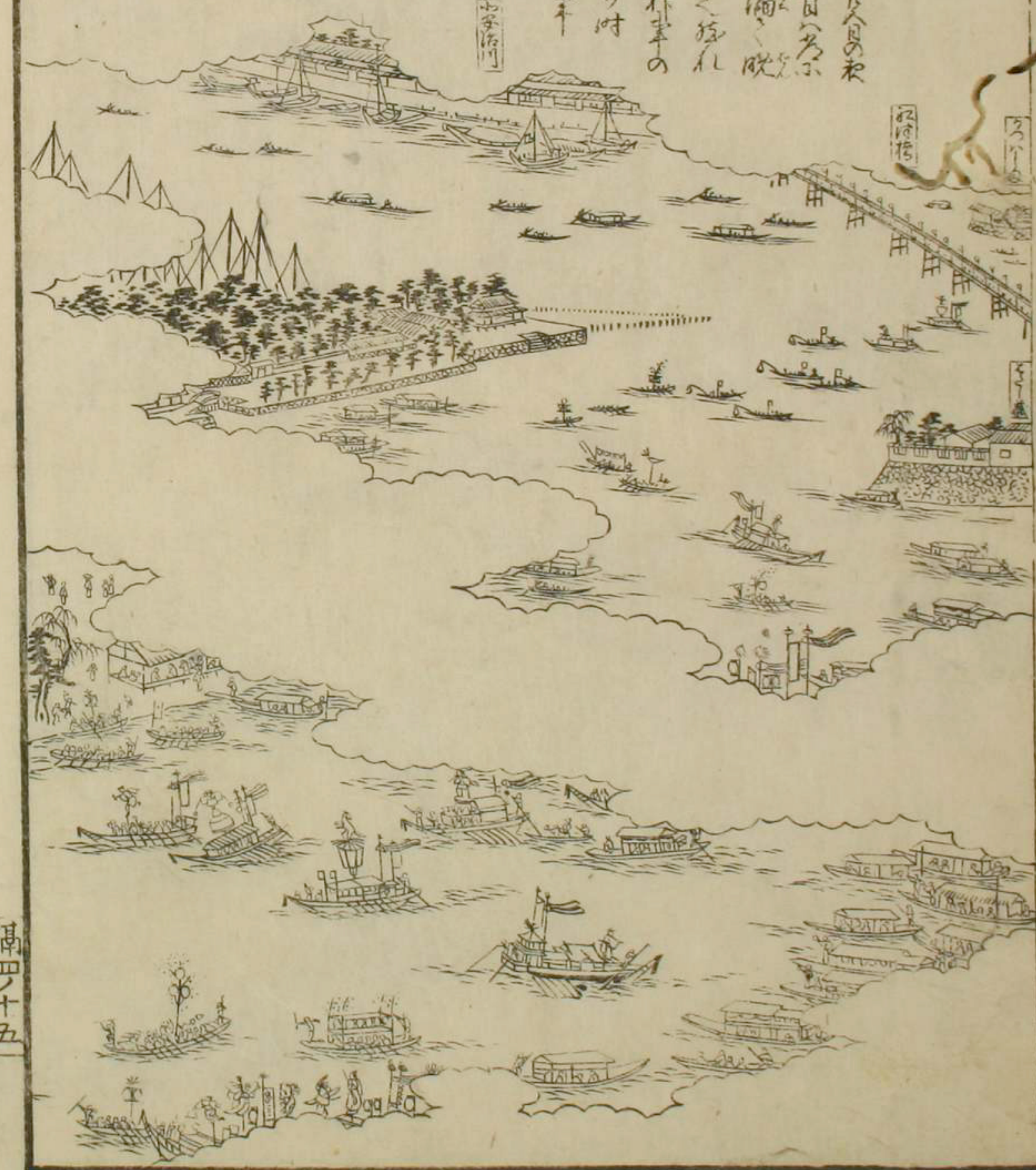
御旅所

挑溪

老丹院

伊澤彫

神運の遷すは人の衣
みこのはくは日へふ
夕登ハツ村満、殿
のヌツ村小ひくはれ
ども毎年の林草の
目もろく衣九ツ時
まをまひひるまき
かく川の
流と流の
安く林運と
還すを
直に瓜黄ひ
夕とひ
さうらる



攝四十五

大江橋

一名渡邊橋近江川の下流今の天満橋天神橋の間に架け伏し時
八百三十四年今川橋狭く成つた橋を架け一三三三天満橋長百十五間
八尺二寸神橋長百廿二間二尺三寸新波橋長百十四間六尺是は浪花
の大神橋といふ今の堂は此大江橋渡邊橋の邊に堂造り成築く時
貞享年中中川に舟を
旧名ふく川と稱く
又本

ワのや橋のうてとけ先をくおる春のほ下をく病状
はらうわえのけははらうらん人のあろそ是くワのけか
後成

鉾流寄

今の新波橋のやうな川に流るる天満橋と鉾流の神事とを川くむ
糸日小鉾流の流し其をゆりし所と神旅所と
故大和川橋向川今流し橋下より大川入南の金城みく金城の
系橋 神橋を欄檻葱寶珠銘云元和九年造立と橋を東北の庁原町に
相生町少く系街道北の橋爪小
毎朝川更の市あり

川寄御宮

天満川橋のり園花集云元和年中和乎下総守匡清彦創建
建仁寺小属次と云云神例系四月十七日日新人乃系流成
許しゆり神境内小觀若堂茶師堂純齋基あり都て社頭櫻花
多く艶嬌始り
有樂齋二井 花の井菖の井梅の井の名系みか九昌院のやうりあり
嘗て織田有樂好く掘りしやうりと

攝四十六

天満宮

本社中央之自在天神相殿 東ニ多力雄令 東ニ法性坊尊意

西ニ 榎田彦大神 西ニ 輕見尊

村上天皇の御宇天曆年中
勅額より門を抄めて此地を建立し
神人今よまふまを所をうりては社職者神主社家の外は僧侶の
加れりや

あそもえんねふえの夕の夕の夕

まは地と天満と野とるの社鎮座しゆ故に大將軍祠 上古流花
一樹四隅に鎮守しゆ其一は 輕見尊 遷居末社 神明 八幡 皇居あり
故小地主神と崇奉す 十二社権現 荒神 宇賀神
祇園 老松及紅梅及櫻木相殿 白太夫 外外 抄社 福徳三所 大徳文
當社より 神事 公勤む。 神主 境内 鎮座 並符 神 同
末社 梅若 住吉 松尾の二系を相殿小系あり 又
其外 宇賀神 吉備公 等 系あり 迎奉西の方

小魏々る封疆と築く茶本植末社と遷すあり四時浴人多く社内
の市店觀物將口彫植本屋の鉾植泉水の金魚小池を料理月毎乃
廿日の群系を道満を鉾流一の神事三月廿日朝より神速船
こく福徳の童子のみをびるふ船と飾く一掃の浴衣を着し樽柏子

免餓野

日本紀云 仁德天皇三十八年春正月癸酉朔戊寅

立八田皇女為皇后秋七月天皇與皇后居高
亮而避暑時每夜自免餓野有聞鹿鳴其聲寥
爰天皇語皇后曰當是夕而鹿不鳴其何由焉
明日猪名縣佐伯部獻苞鹿其問之曰夫以問
曰其苞鹿野時物也對言壯鹿也其者必其鳴鹿也

祇園會流花の天満をい聞よりもるる百倍なるべし
流瀧馬あり
二弦をやうし歌のやうらうらう花炮皇降る昇る龍水の面みかやた市中
の車樂小新地の妓婦の邊お頓狂狂言浪もあつて大坂第一の賑へ糸師の
免餓野の天満をい聞よりもるる百倍なるべし
流瀧馬あり
二弦をやうし歌のやうらうらう花炮皇降る昇る龍水の面みかやた市中
の車樂小新地の妓婦の邊お頓狂狂言浪もあつて大坂第一の賑へ糸師の

福四十七

井上

因謂皇曰朕比有懷抱聞鹿色而慰之今推
佐伯部獲鹿之曰朕比有懷抱聞鹿色而慰之今推
不不知朕之愛以適逢獵獲猶不得已而有恨故
佐伯部今欲近於皇居乃有司移之鄉干安藝
淳田此今淳田佐伯部之祖也
あれ仁徳天皇八田皇后と高麗小昇る木の根
をい聞よりもるる百倍なるべし
流瀧馬あり
二弦をやうし歌のやうらうらう花炮皇降る昇る龍水の面みかやた市中
の車樂小新地の妓婦の邊お頓狂狂言浪もあつて大坂第一の賑へ糸師の

同卷云俗云昔有鹿一人往免餓野中時二鹿臥
傍將又鳴壯鹿謂此鹿曰吾今夜夢之出行必
多降之覆吾身是祥也鹿答曰汝之素應也
為人見射而死即以此白鹽塗其身如霜素應也
時宿人心裏異之未吸時鹿突有獵人以射壯鹿
而殺是以時人諺曰鳴壯鹿矣隨相夢也
これ旅人の犯狂の鹿のやうに免餓野に在りて
免餓野の一名免餓野と云ふ也
多しゆま本集に左道中將公衡卿の奇あり
みまのやうにの鹿のやうに免餓野に在りて
免餓野の攝津志松陽軍使國成等以志く免餓野
みまのやうにの鹿のやうに免餓野に在りて
免餓野の攝津志松陽軍使國成等以志く免餓野

あまの治定形は國勢中へ免歸せしを新二名なり證歌多し其一二は
くた揚るを座の差せし後世社撰ししと考ふる

押照やみほの垣に小船せりしはけせの藤の如くはせり
津島法師

月かけはく相かきやうんはけの藤の如くはせり
源師光

夜と残は絲を糸はけを表ある差せの藤もかくやうん
西川法師

あせせやいむとつらんぬを玉の差せの藤もかくはせり
と明

攝津國風土紀云
雄伴郡有夢野父老相傳云昔者乃我野有牡
鹿居此野其妾牝鹿居於路國野嶋彼牝鹿屬
往野嶋與妾相愛無比既而牡鹿來宿牝鹿所
且牡鹿語其妾曰今夜夢吾背此雪零於此夢
此見支又曰都須父紀牝鹿生多背此雪零於此夢
何祥其嫡惡夫復向妾可往乃詐相之曰此夢
生艸者淡路野上之祥又雪零者白鹽中謹勿
復往其射鹿不勝感戀復渡野嶋海中遇逢行
船終為射死故名云

明星池
天満大工町あり藤云菅仲初鎮座の地むくは初ふ靈松
ありて菅仲の屋ありし其指し藤を以池水より引く

僧日羅塚
天満同心町あり今洋より日本紀云敏達天皇十二
年詔費子大連糠手子大連令收葬日羅於小郡西畔丘前云

小郡とある成郡
朝来池
天満十町目條女史池町の東ありは池水瓜耕畑の淵と云ふよりなる
禁くたれを後世其側又一つの池瓜掘り土人女史池とよぶ

寶珠院
天満東寺町あり相傳菅仲初鎮座の地むくは初ふ靈松
ありて菅仲の屋ありし其指し藤を以池水より引く

天満宮
境内あり神像長七寸あり初弘法大師の
陶基ありて本尊少大日如來安坐也

興正寺
天満七町目筋あり系師七條興正寺抱所之處は三代源海上人の陶基也
寺と号し寺ありて菅仲の村天満郷中人別ふ目と考附也

経子社
天満西川あり中央北比叡方あり菅仲命右太王命と系附也
其外末社多し毎正月十日祭事也

宗因墓
天満西川あり菅仲の墓あり延寶の代此人ありて葬諸塚ありて
世々傳傳と号し其後戸田芭蕉翁落小言水難波小
宗因とて名多しは菅仲の墓ありて一説ありて天和
二年二月廿八日没し年七十一歳小七十八歳

夕の人もめりしけは乃基
宗因

友の友や東もか小月もあ
全

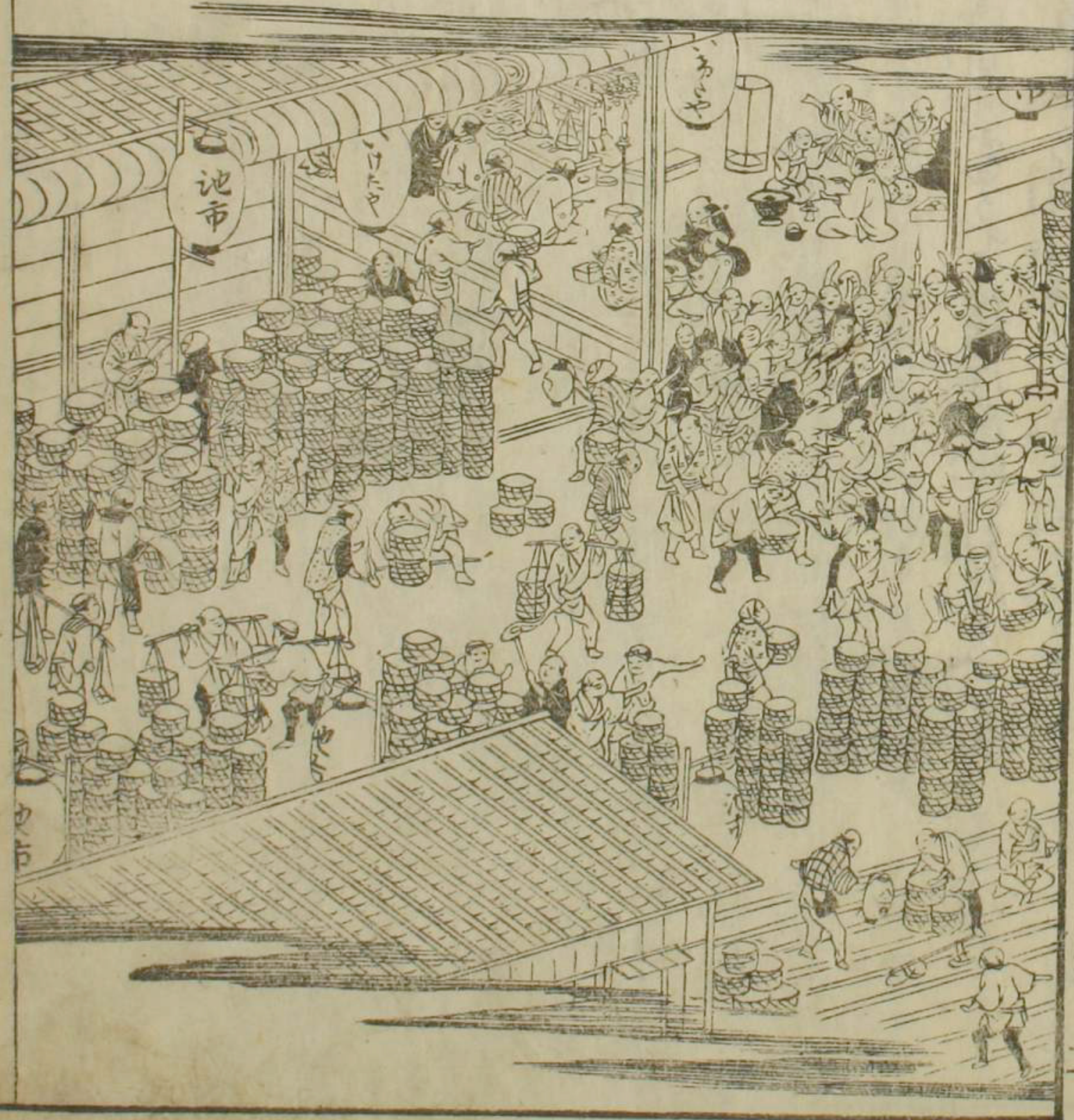
有明の能き狩る不ゆく貴基
全

冢入る宮も系韃の旅海代
全

志く病や毒分別ある基所
全

天満市之側
 紀氏六帖
 芦花の
 かひこり時
 天地と
 人との
 あれい
 ささきうら
 なる
 まえ

天満市之側
 毎年極月廿四日の
 夜お祭りあり又
 榎上りありはあま
 市なるは榎の
 市に諸人賑はる
 市に繁盛なり
 市に長らく



井上



福四十九

天満菜蔬市

龍田町中ノ側ニ有リ
下ノ西ノ市場上ノ瓜菜市場トシテハ
龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

龍田町中ノ側ニ有リ
龍田町中ノ側ニ有リ

福四二十

井上

立寄りあり人あり
の杭州帝小市
書りいぬれ

北野天満宮
久し難波
梅塚天神

稲荷山
不初堂
神明宮

福徳宮
義経宮
後醍醐天皇

其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

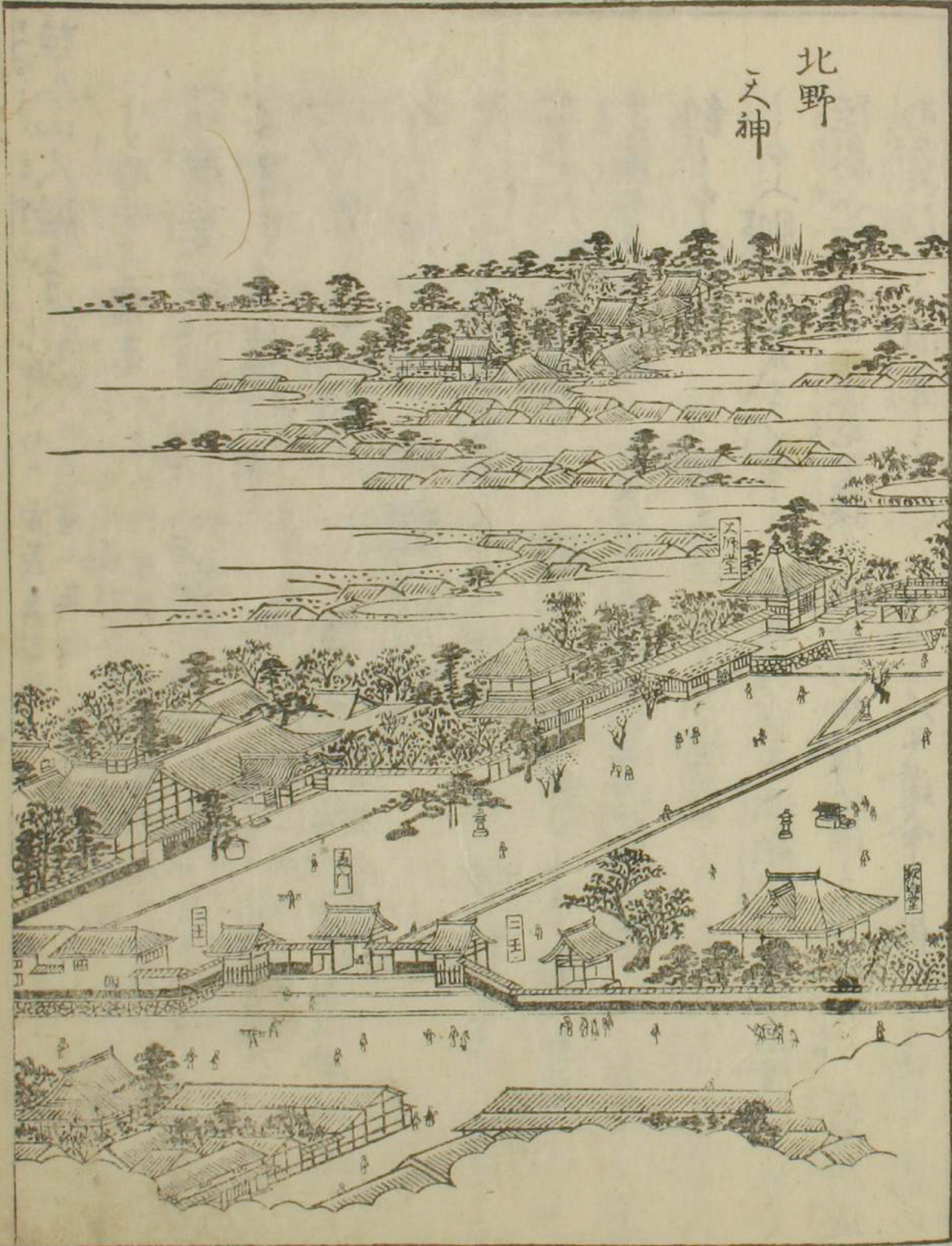
其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

其時社
遺りぬ例
号し高社

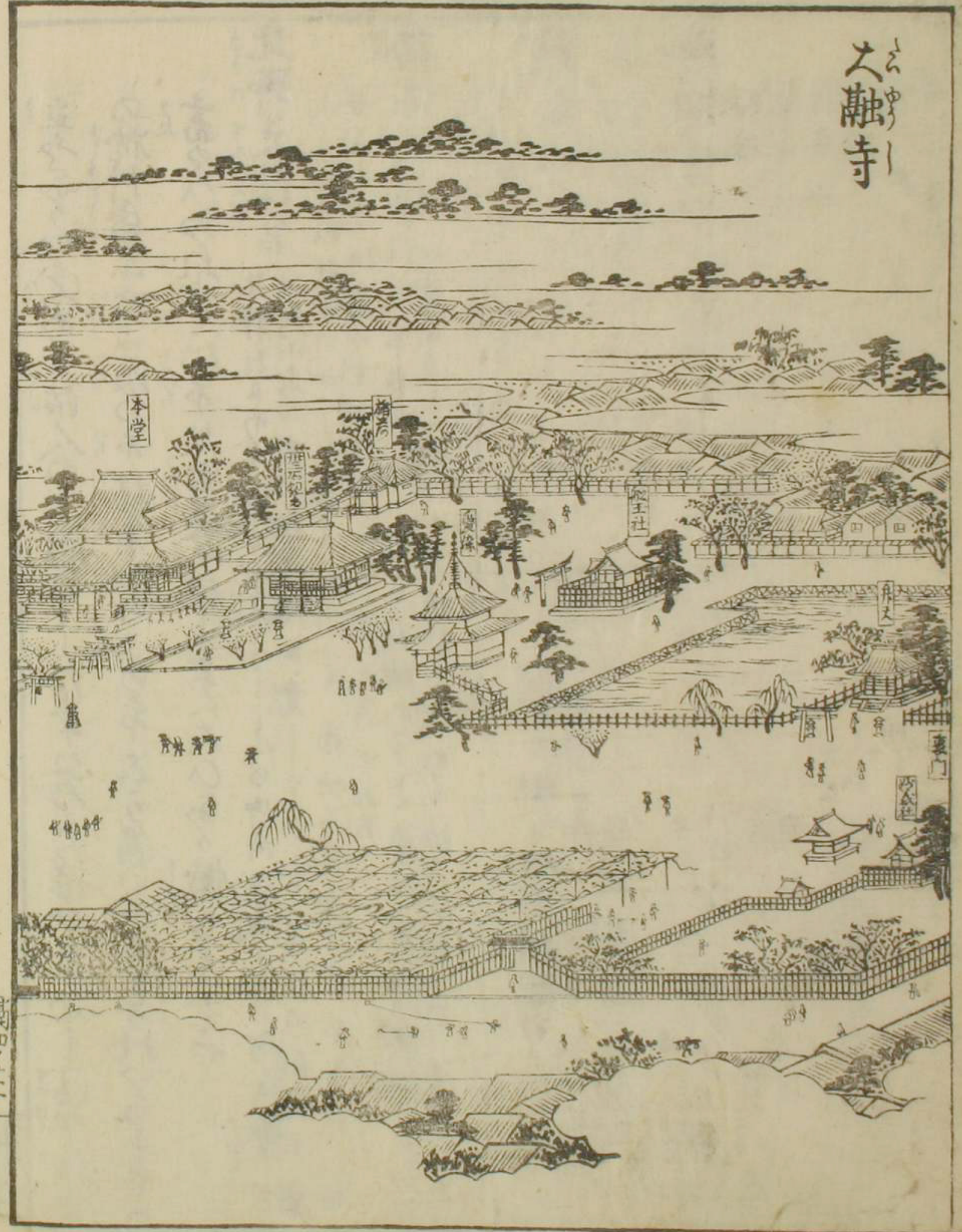
其時社
遺りぬ例
号し高社

北野
之神



井上

大融寺



堀田

桂木山大融寺

北野小のり古義真言宗

本尊千手観音

高野四善庵小属次
春日の他長尺七寸脇士比藏毘沙門と安次俱弘法
大師の他外陣小寶願盧志都の傍次

護摩堂

不初多の智陀大師他在傍式尺六寸又弘法大師自他の教と
安次尺毎廿日あり遠近きたる

愛深堂

愛深明王長丈六
肥州編修候より寄附
釋迦堂
釋尊文殊菩薩賢
十六羅漢と安次

巡禮観音堂

西園二十三木の
観音安次
鎮守
弁天橋夜申船五等の祠あり
又妙義権現祠あり

弁天池

弁堂の
額
観世若と書次
南岳山等

此れ當寺の難波の古寺ありと因基の弘法大師の弘仁年中大師あり
ある時松栢生茂る本下園の晴小を垂光赫々々々異香芳々々々
虚樹あり昂大師あり代々自比藏毘沙門の二軀と刻之佛院あり
創しあり其に 嵯峨天皇あり感感ありと大悲の号容寄附
しあり則ち此本尊と一同帝の皇子源融公一條河原院に建之
陸奥子賀浦の地竈と撰之難波の御津の浦より日毎潮と汲せ御遊
あり其に小遊庵あり仁海上人遺令し佛院と建營しあり

攝四九二

井上

虚樹の地あり桂木山と辨し融公の諱と云く大融寺と称及又其
以弘法大師真言の霊場と云く星移れ換りて逆亂の爲諸堂荒
廢しと大門のむありと西小之町あり今字とあり其外寶塔樓閣
の蹟のみか田園の字あり浴室のむ今風呂小浴と云耕作の地あり
後世快濟上人あり今のむと再興しむし小寺と云と表と堂あり乃
藤波繁々々々候乱々々々俗人の眺とありて賑しに聖刹と云地名
床の瓦と云く免餓野の訛あり

什寶

世尊蓮葉の装束。嵯峨帝御守。弘法大師の佛り中入鉢陀三尊
栢柯の三尊佛。中將雅繁と云く總中入四天王。後醍醐帝建武二年
二月朔日當國吹田莊に寺奉と云く賜る論旨あり。又尊氏將軍
寄附状あり其文曰

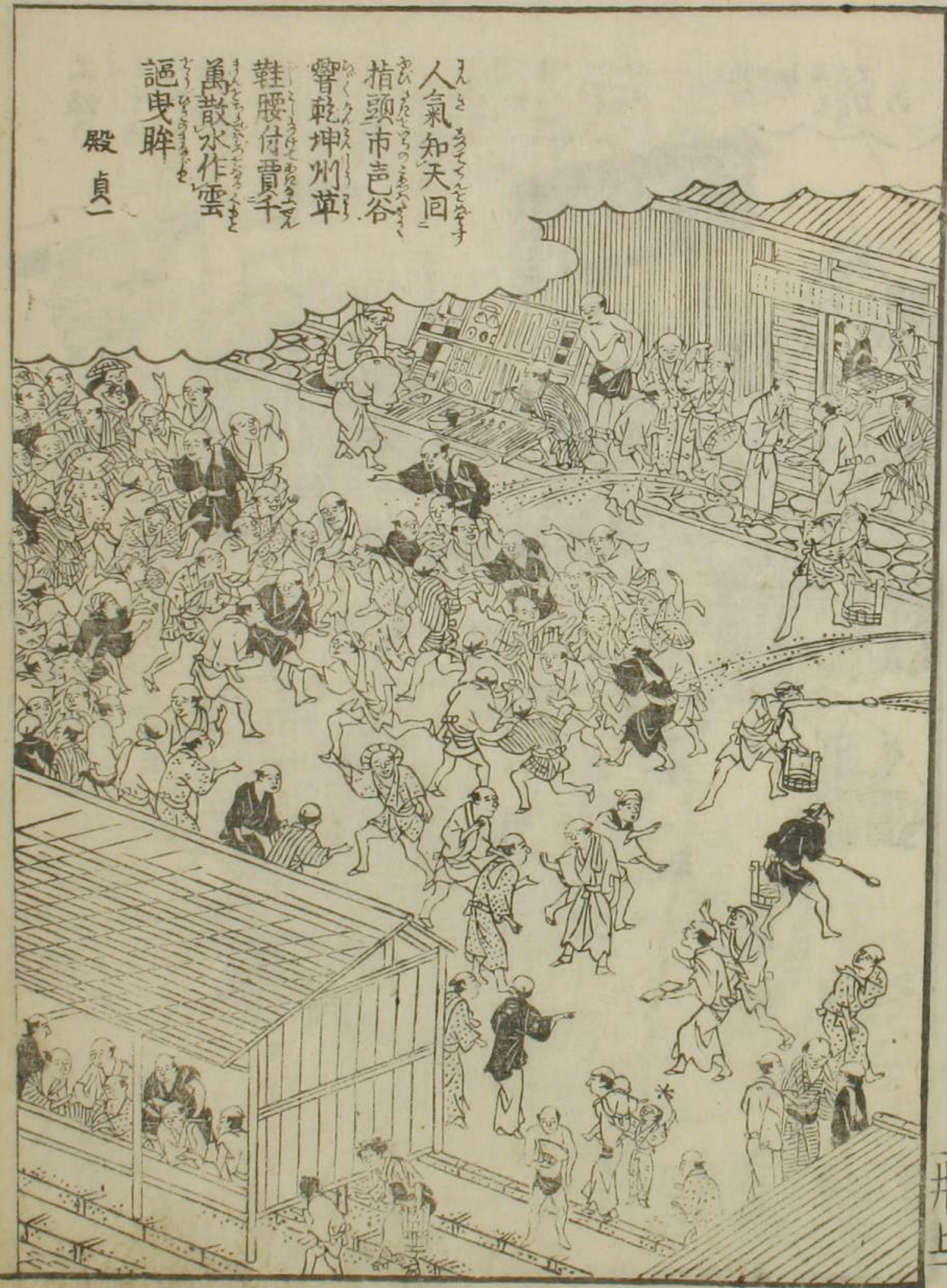
當寺者河原九尺融公之草創一天不二靈場也依有心願
寄附攝州倉橋庄一分新天下太平欲遂二世安全之願依
寄附状如件

建武元年八月朔日

尊氏 在判

大融寺に

人気知天回
 指頭市色谷
 響乾坤州草
 鞋腰付貫千
 萬散水作雲
 謳曳眸
 殿貞一



井上

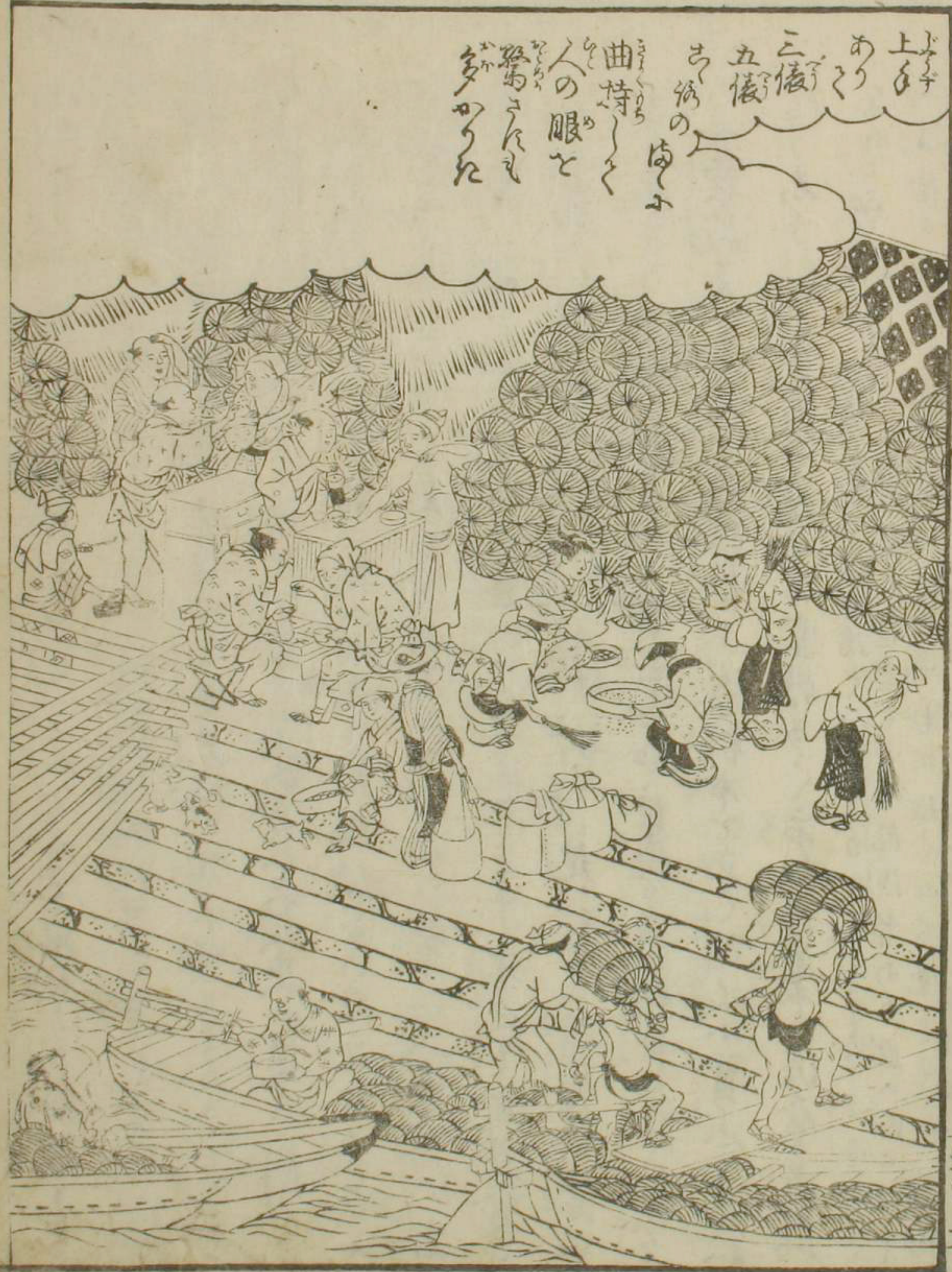
堂寫
 穀糶糶

丹羽排筆



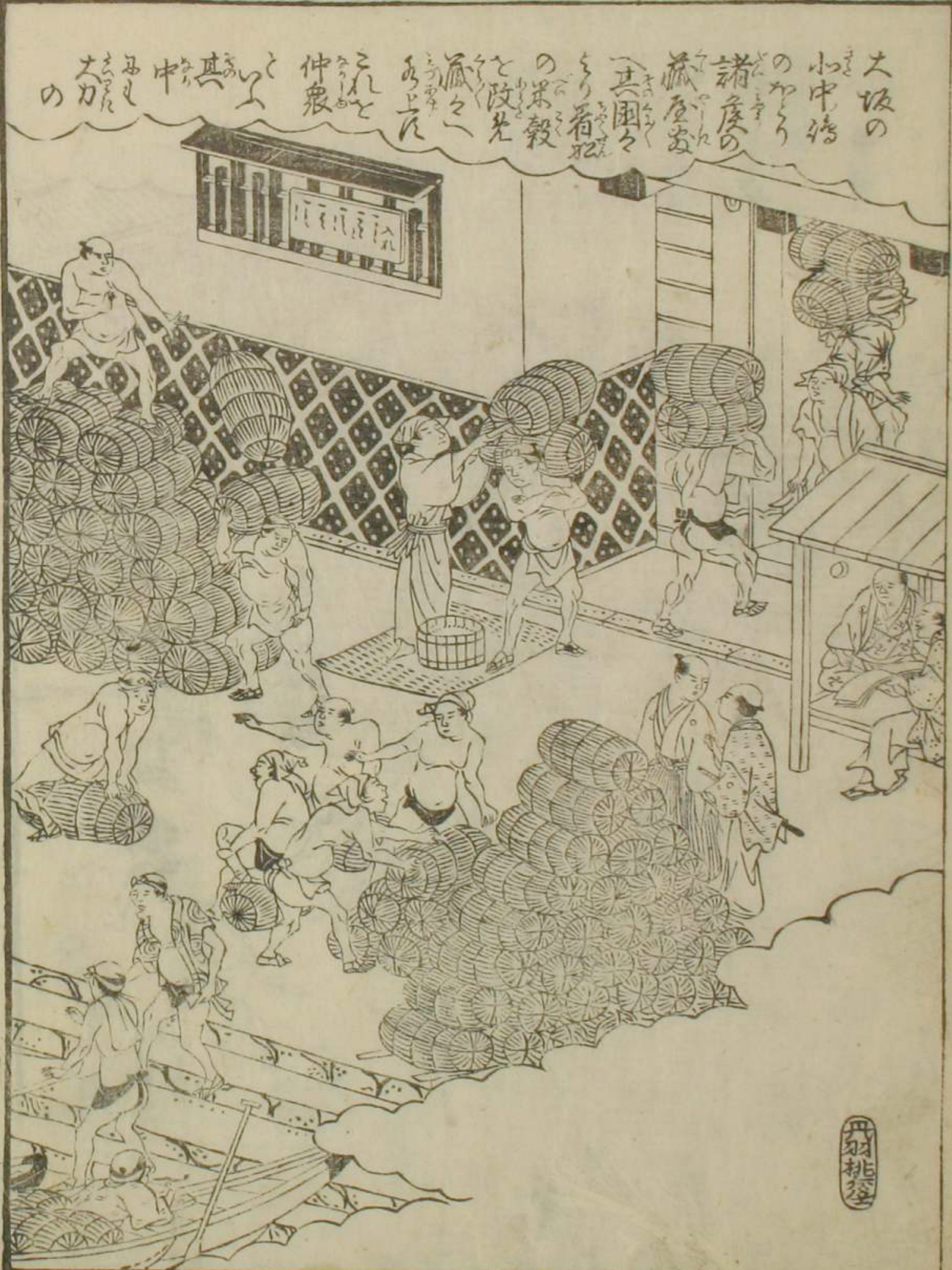
攝四元三

上より
 あつ
 三儀
 五儀
 曲持
 人の眼と
 多かるた



井上

大坂の
 小中坊
 諸彦の
 蔵を
 其困々
 の米穀
 と波先
 派々
 仲衆
 其い
 中
 大坂
 の



攝門止巴

井上

堂嶋の市立を雑穀と糶糶あり其市人とも早且より斜陽を

街小聚るく指頭を揺して百万の斛粒と相對に其置いた事ゆん

方か其年の豊凶又其時侯の幸災大比の順不順もより尊た

あり卑さあり其高下の極と市調といふは又須臾も遠き國く

やせもあつととやふらる御あもあつ粗け市の始えは原ふ

俗談云々天正年中今の淀屋橋爪小淀屋巨菴といふ豪富乃者

あり豊太閤の旗下一多くの軍糧と運送する年々久し其恩賞を

して名画の鶏と賜ふ賞と黄金の鶏と賜ふ是はむく遣唐使の府屋の

玄宗帝より本朝へ献せられ寶器とせむ巨庵が家へ信繁榮して國々

の米粟菽麦を買積ては橋爪と今朝市と立く諸人小賈く其粒

ゆりあつれといふ家後て後今の堂嶋みく市に立る年々淀屋を遺風

ありとを聞かす或云今の淀屋橋といふ家より架初しと堂嶋と

文集にみよとあり其はは多いす野原ありしは貞享の辰

福四九五

井上

公命ふりて市中とらん今北後といふ大江橋渡辺橋田義橋王江橋等ハ

堂嶋御發の後元禄年中掛初しと

括したる百万斛とてまかき六嶋牛の角此争ひせん

九鯉

水傍やあふ人の初しと

大江丸

是より落天神の御あり又老松町あり惣いふは俗に

水の初地堂考新地といふ室永五年の向地と考小縣といふ

兩側あり初の御ひ能や登りて紅顔赤肌の案ゆきしと樓上

みん琴曲糸弦の老案しく芝居あり射場あり西の町端に編笠

茶屋といふ江村と製しと雀組と名づけ名聲と伝ふ是

神の符光なり

眼神八幡宮 不初寺の南あり諸人眼病を愈ふ御す土細工の燈籠

龜形松 田蓑橋南飛諸彦第の並木に樹上よりなれは龜の形み見ゆ

玉井 筑紫殿橋南爪玉水町あり俗に名聲あり四時塔藏なりは橋

船の対し懸しとて

天満堀川
 軽子宮



輕子海
 持子
 音市
 南更

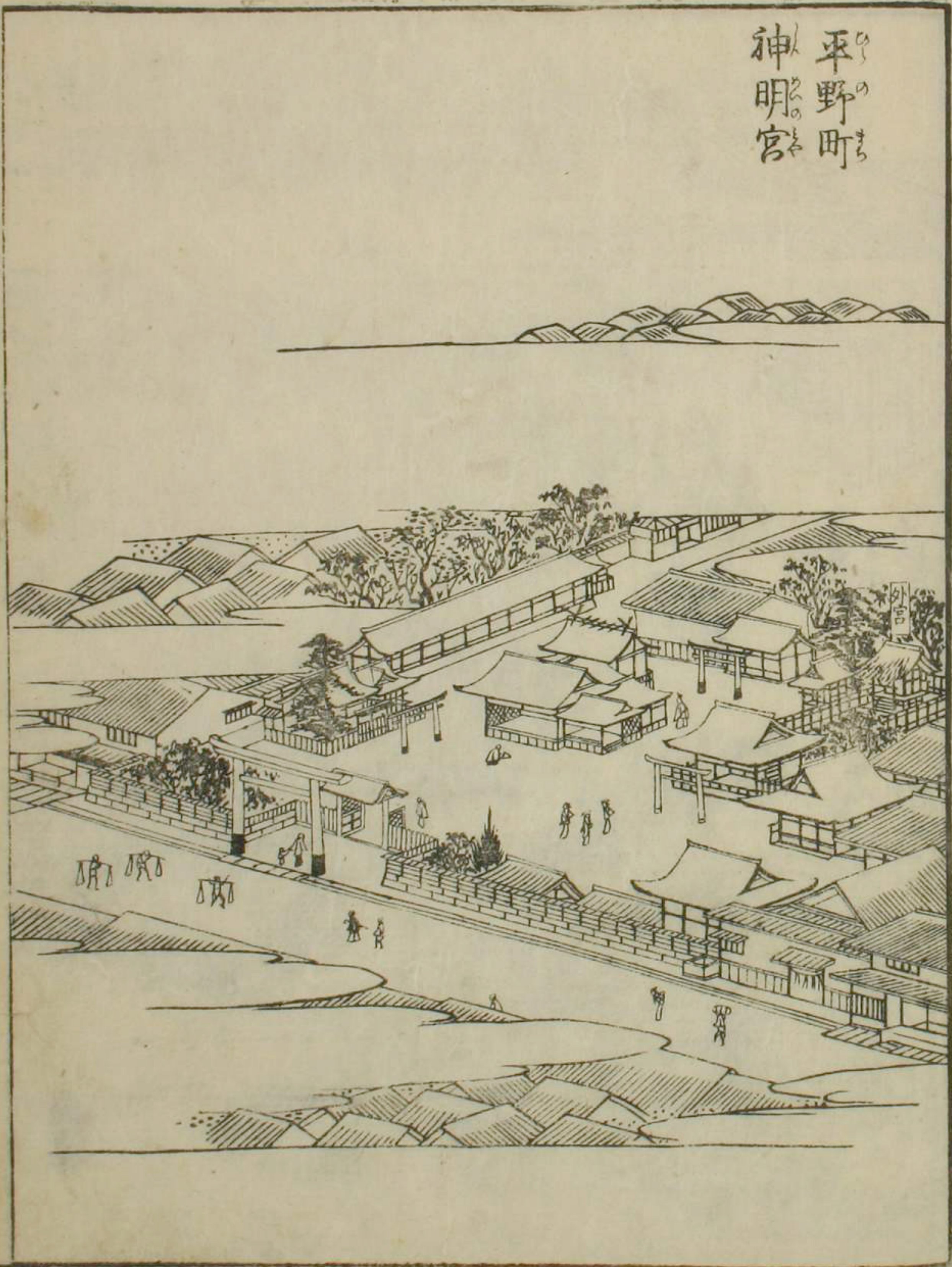
大江坂鳥鐘

上町
 下町
 役
 丁
 更
 々
 勤
 め
 く
 至
 衣
 非
 常
 と
 看
 る

井上

是歲甲戌之秋
 源左大臣命被
 使寬祐裕之命
 皇使萬歲新鑄
 皇使萬歲新鑄
 賢道君皎帝使
 疑道君皎帝使
 將軍
 大華鎔金鍊五
 仁者蓋夫無貴
 清平者蓋夫無
 一八世有父母
 地祇劫石
 音無盡時
 寬永十一年
 鐘銘曰
 戊戌之秋
 命被獨當
 地野市
 鄧喜悅
 欽眉故
 租依衆
 是天評
 下
 不費鉗錘
 昏報之
 晨昏報之
 風不鳴枝
 萬民蒙慈
 大明無私
 護丹墀
 永通神
 響通天
 有消日
 逢閏茂
 治工藤
 願主町
 巖叟書
 野釋龍
 巖叟書
 中一結
 衆次等

平野町
神明宮



井上

神明宮

内平野町あり系林中央天照太神左八幡宮右春日明神
社説云初ノ洛西の西院あり元和二年松平下総守清匡侯
初預成社より門を以て地へ勧誘あり又持津志云當社天窪津
王子祠と林及又波多王子ともいひ然れども幸記ふより例系ら
て系ら六月廿八日社系ら九月十六日之毎月一六日社系ら社預
社末社加へあり

高田専修寺

谷町二丁目あり勢州一身田の惣所依津寺と号し自唐所坊人
本寺阿弥陀佛阿弥陀の他寶物觀音を人本備所自他安並次

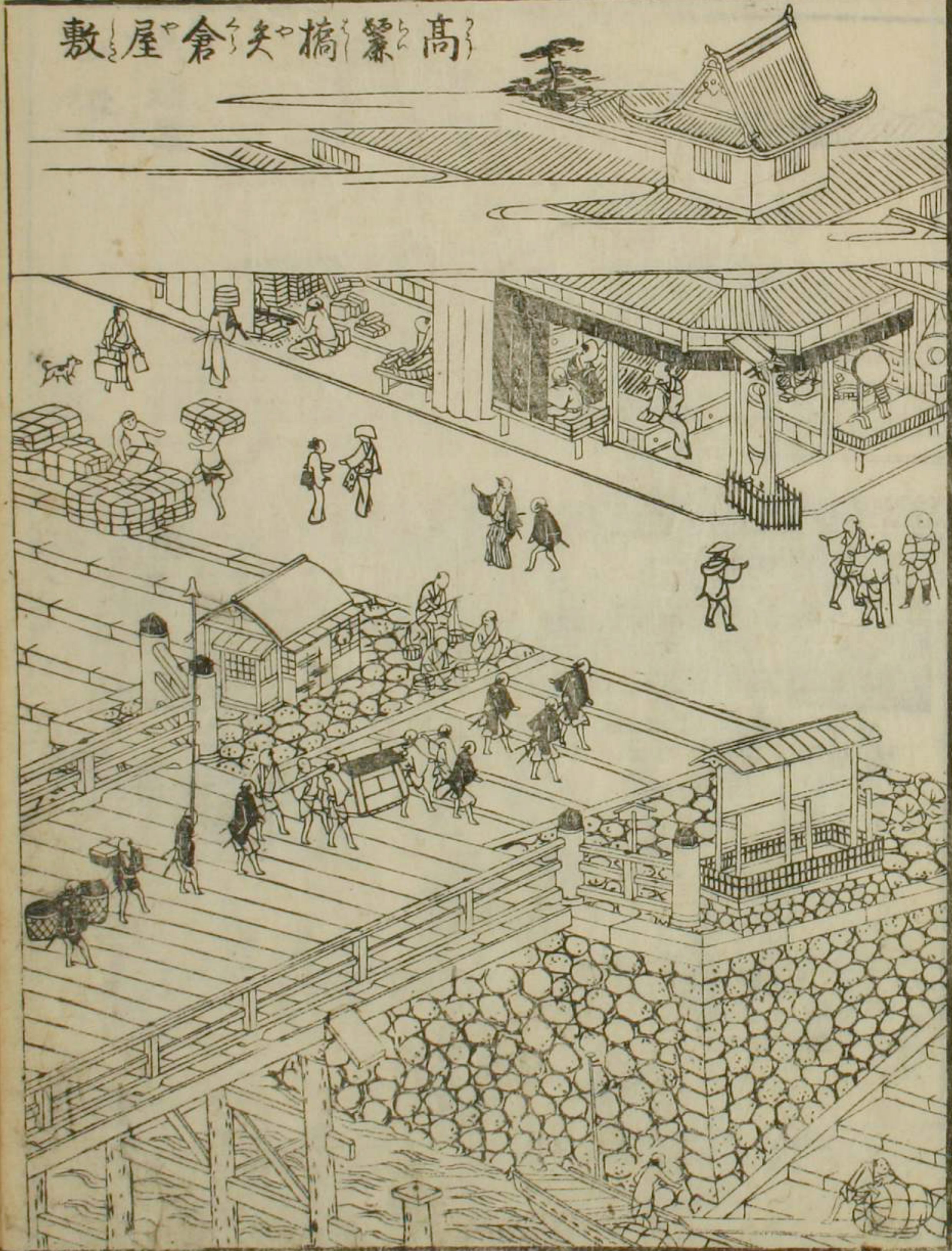
樓屋敷

高田橋西爪あり又樓筋平野町あり又坂市中之寺あり
高田橋筋を町目より西小坂振野町あり又日三町目小
買人級にしく世小名あり

羅門九九

寛永十一年九月初く鑄く大坂三郷町中納り
館文谷町筋寺町西側禪宗大仙寺龍巖和尚洪港庵元供養
一心寺の住職天譽和尚といひ隆治の大意寛永十一年甲戌七月
東園より御上洛の御土産より大坂町中の地子作教免あり
三郷町の町中永世不朽の作仁政と有難存ト高田橋乃櫓
屋敷より一統の作仁政と申上まを作厚恩のなす町中
と志却波さゆるといひ意と

敷屋倉矢橋繁高



井上



福四三十

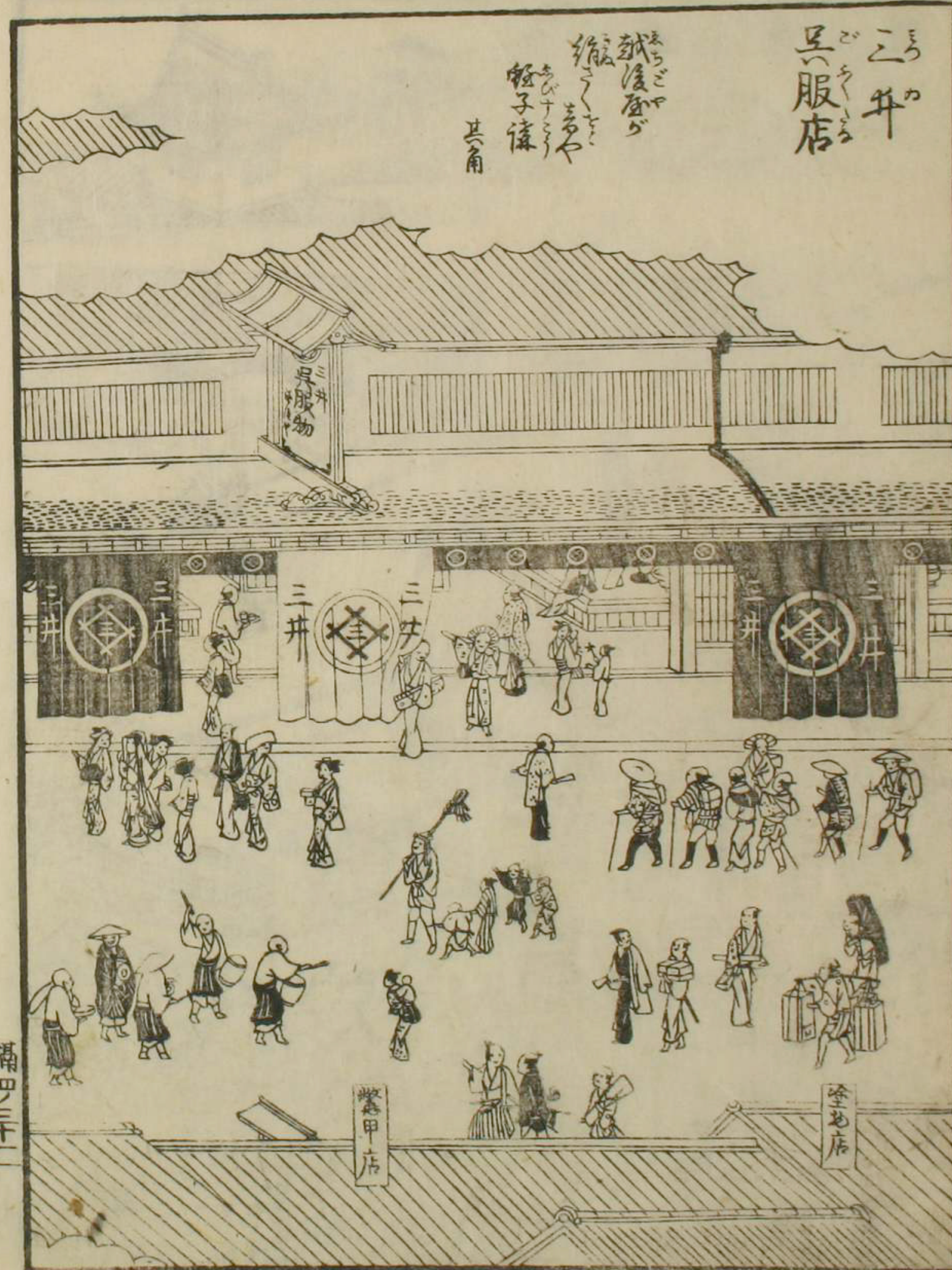
五羽熊



丹羽地復

东店

井上

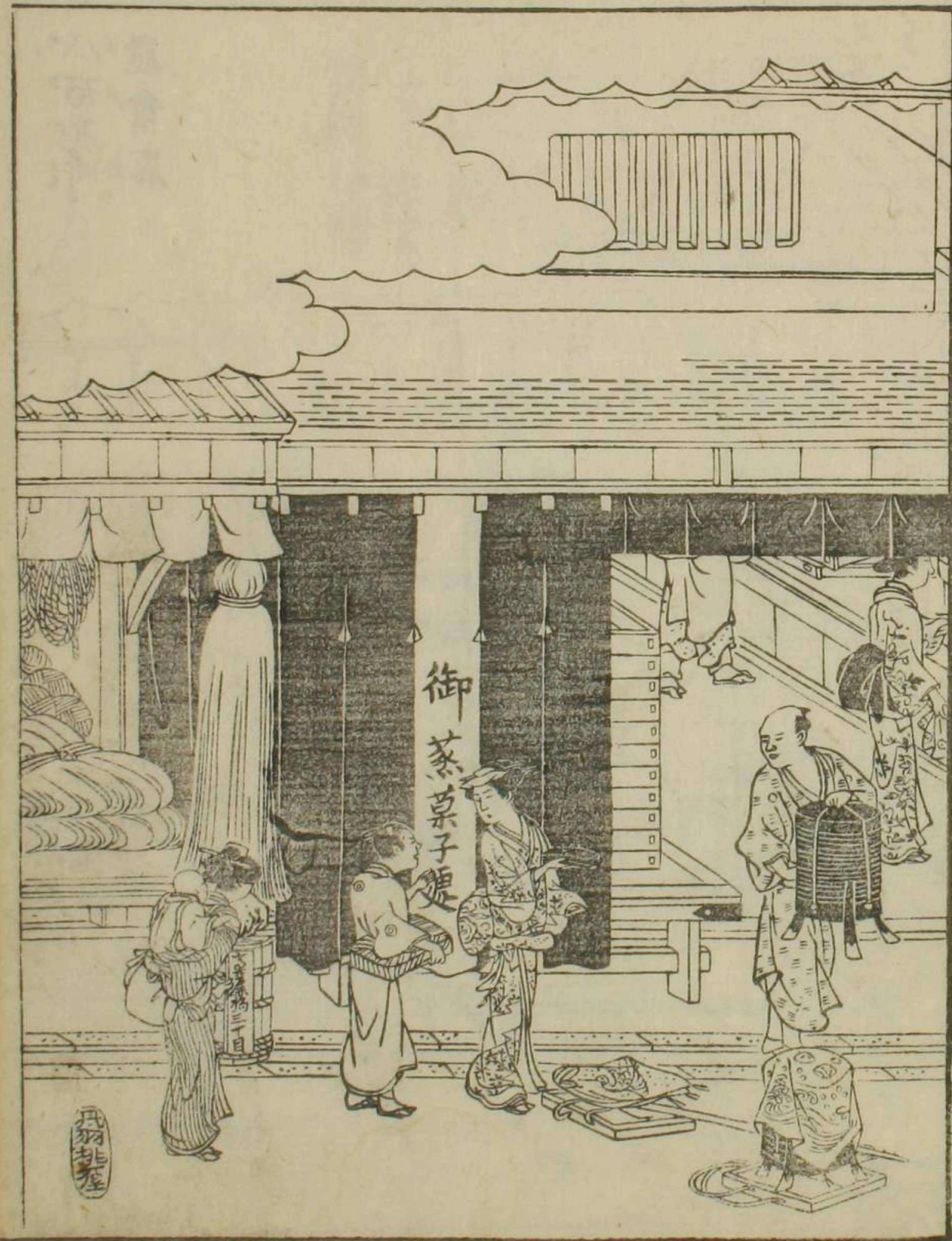


三井
呉服店
縮
裁後
縮
軽子
共角

桶四子

紫甲店

塗也店



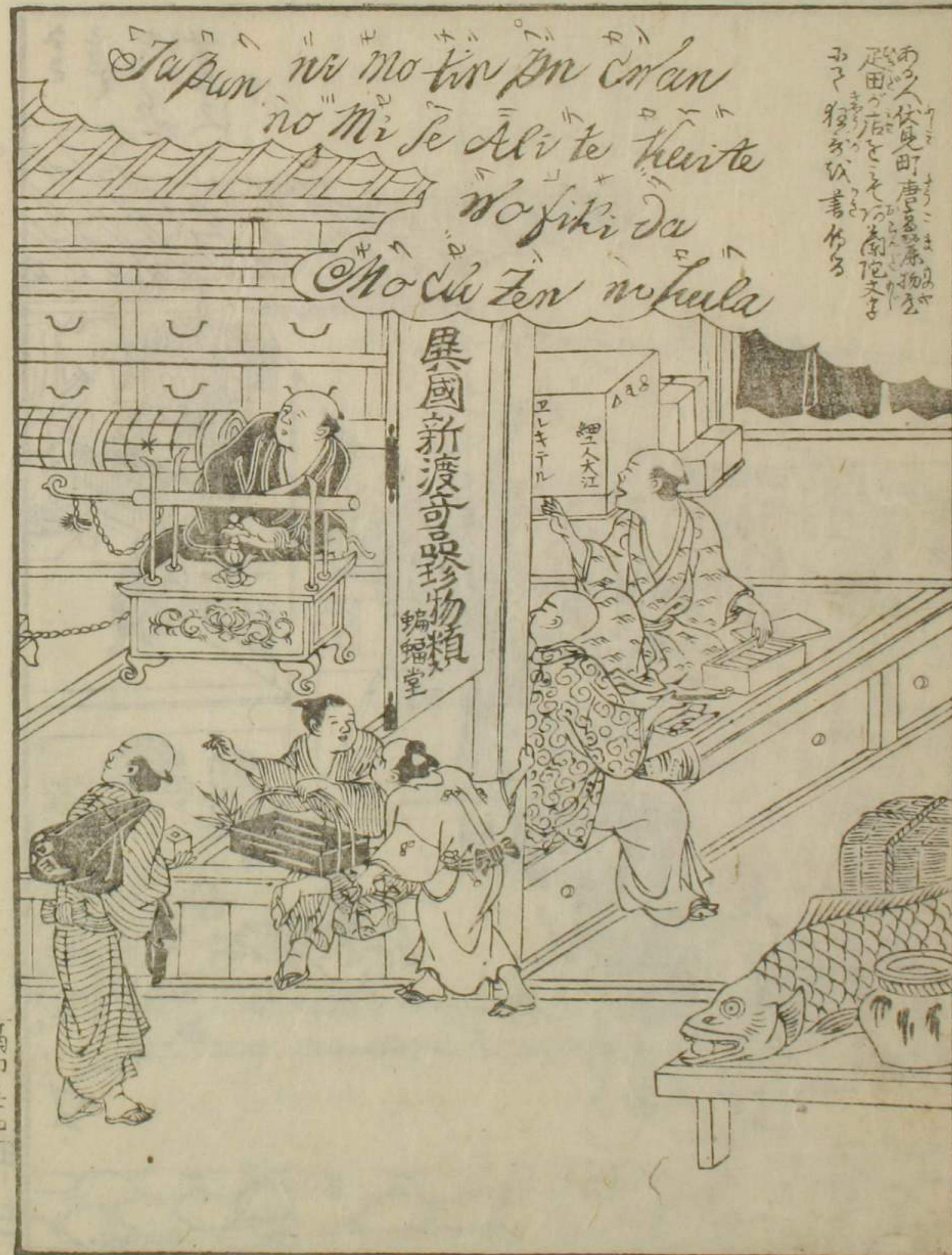
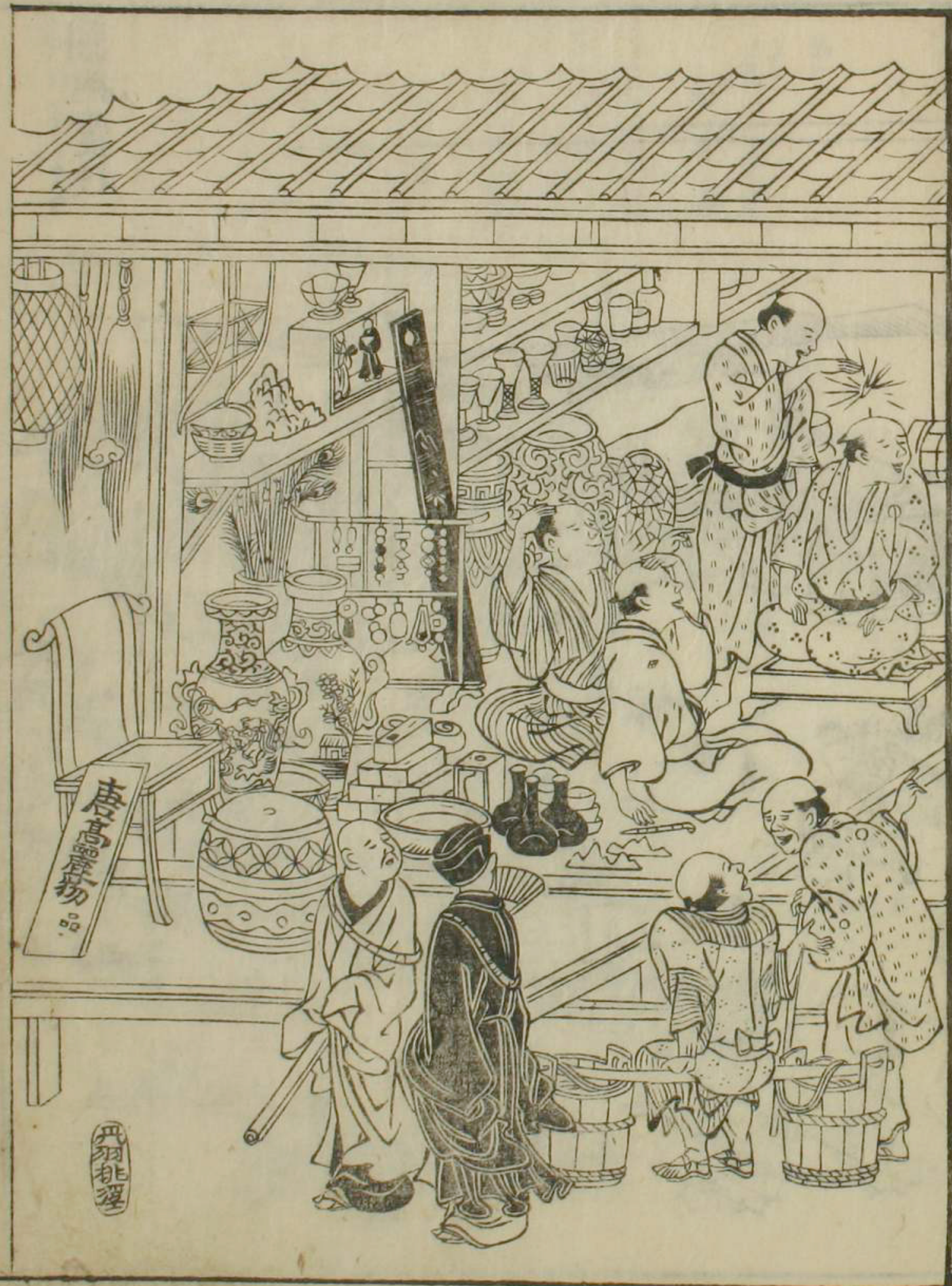
氏羽北屋

井上



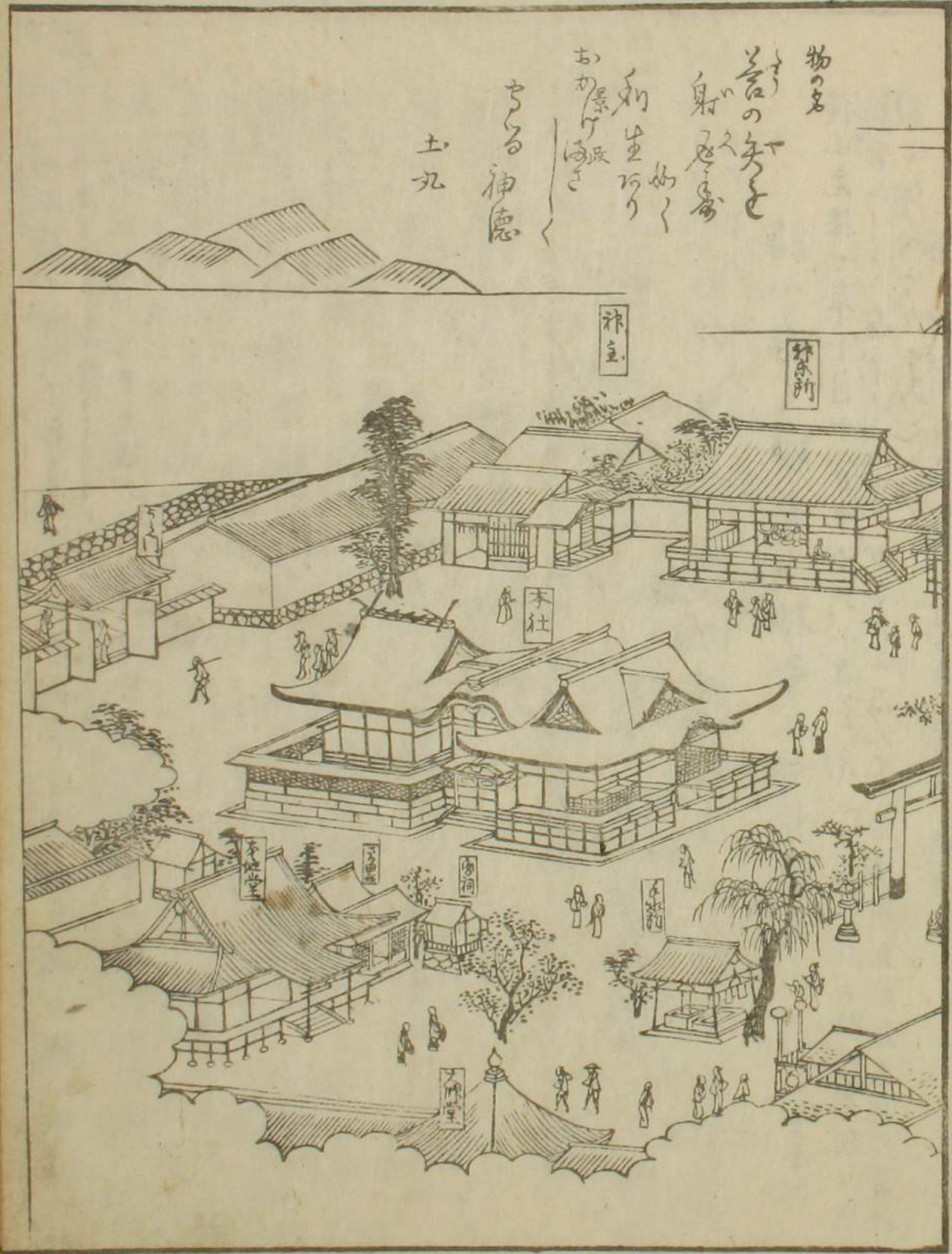
高懸橋
虎屋春繭店
虎屋饅頭纒五文
店前終日百花群
信牌通用實銀札
千里美名似走雲
藤原

攝四三二



Japan no mo kin in can
no mi se Ali te heite
no fiki da
Mo cu Zen wfula

あつた見町唐高麗物
足田の店をその南に
ふり移す以書作る



井上

圓御靈社



幅四三十五

御霊社

御霊社 船場町の西巻井町あり天正年中巻井社官候の祟は地

系神

系神 社説曰中央天照太神在八幡宮右鎌倉推立帝景政の祟と

神水

神水 神籬の 宗源殿 本社の中たれも方に後人多く芝居市店多

菟布良祠

菟布良祠 神名 基治祠 菟布良 本地堂 茶師併成

神樂所

神樂所 本社の 観若堂 神樂所 本殿

佛光寺

佛光寺 船場町あり系師併成の抱所と

芭蕉翁終焉地

芭蕉翁終焉地 南久太郎町六丁目 芭蕉翁 蕉翁南都より難波

八日の秋の陰に 族小病てゆ先を栞也瓜切也

後小元禄七年十月十二日申の刻小波と年五十三一説云此地を初ノの

油煙齊貞柳蹟

油煙齊貞柳蹟 南柳堂あり業々 柳登山城塚と辨後王を併 信海

白ふ入く... 月あつて雲の上ま... 貞柳

七十... 百人... 夕立... 月... 初... 全

百... 夕... 月... 初... 全

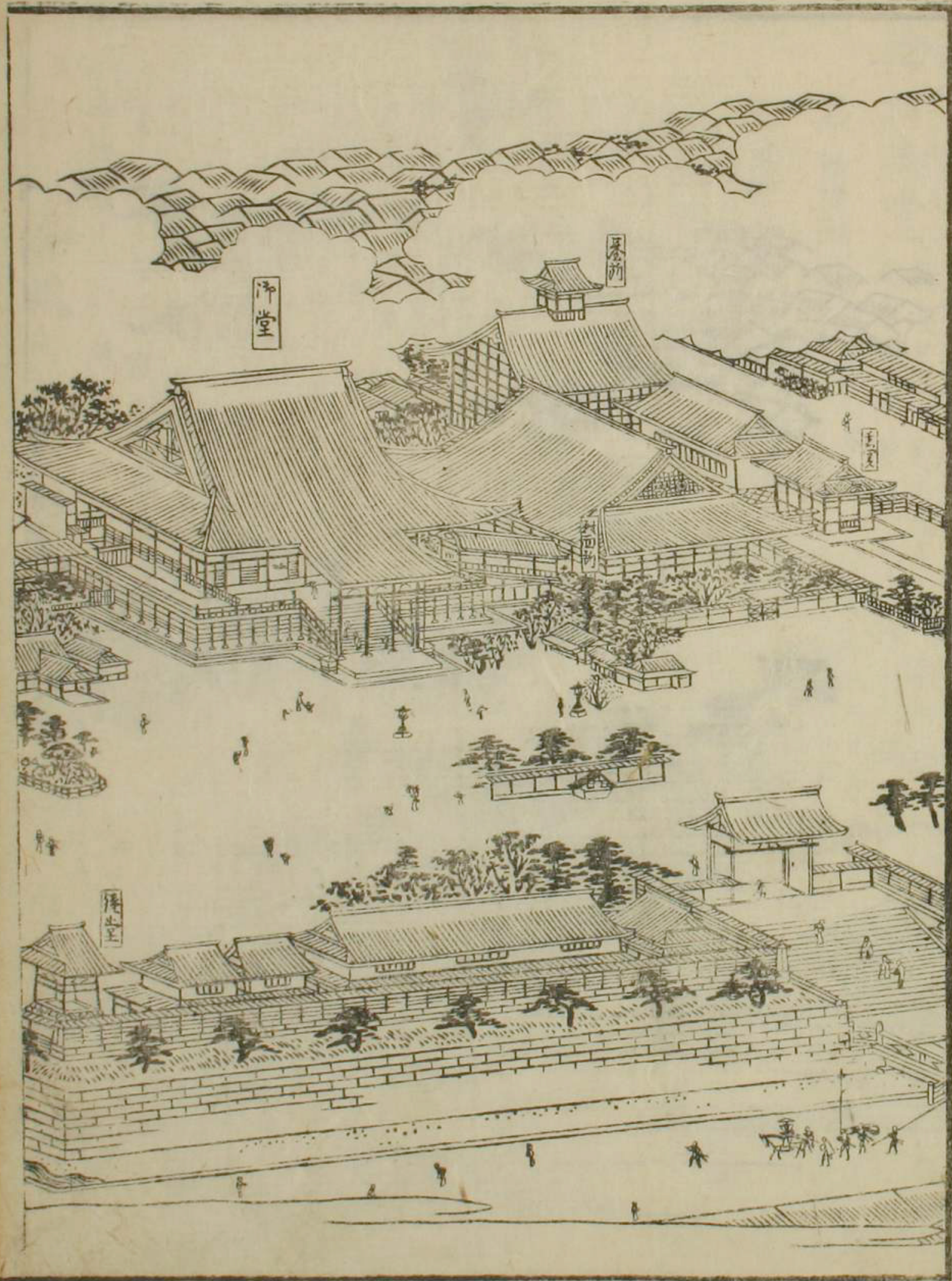
百... 夕... 月... 初... 全

百... 夕... 月... 初... 全

百... 夕... 月... 初... 全

百... 夕... 月... 初... 全

百... 夕... 月... 初... 全



浄堂

茶所

法堂

護国寺

一八



津村御堂

西釈
御願寺
坊

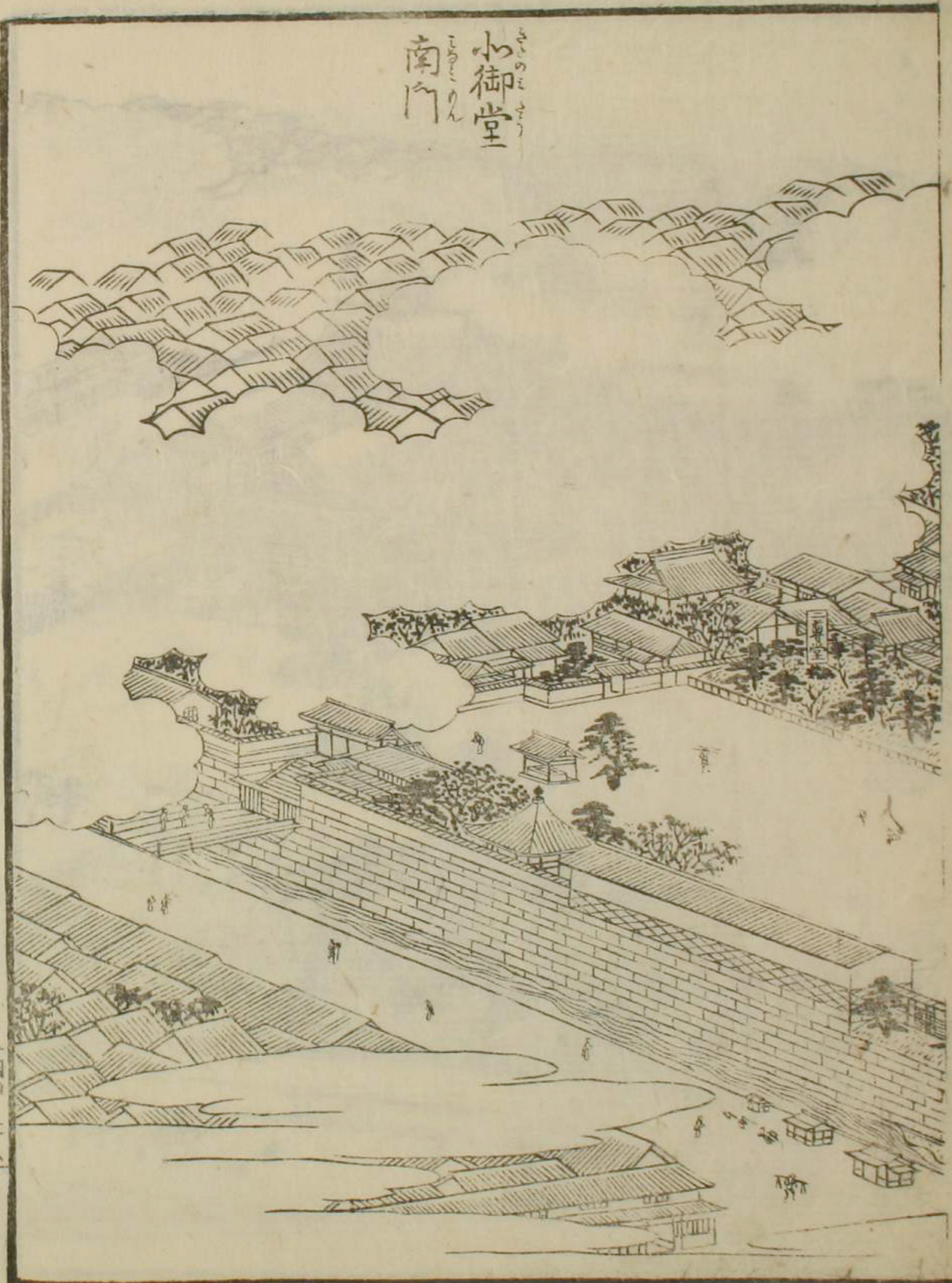
國師

茶所

幅四十三

十七

小御堂
南門



攝叟三十八

津村御堂

御堂筋本町の北ふあり表津堂以北津堂とてり系師
西平頼寺抱所あり津村の圓の龍あり

本尊阿弥陀佛

安石孫化長三又八寸兩脇楯小向山親善聖人教
系位上人教聖德太子七三係九字十字名号依安後

二尊堂

津堂の南ふあり向山聖人蓮如上人の
二教と安次俱蓮如上人の系あり

對面所

津堂の北ふあり莊嚴堂あり大不度一津門在十向の付ら
門徒多不於津益每非付不列次是依所相傳とてり

轉輪藏

二尊堂の東ふあり
一切經瓜藏也

鐘堂

鐘藏の東ふあり 鼓樓 巽の方築地 本堂の南ふあり
路人あり小憩あり

茶所

本堂の南ふあり

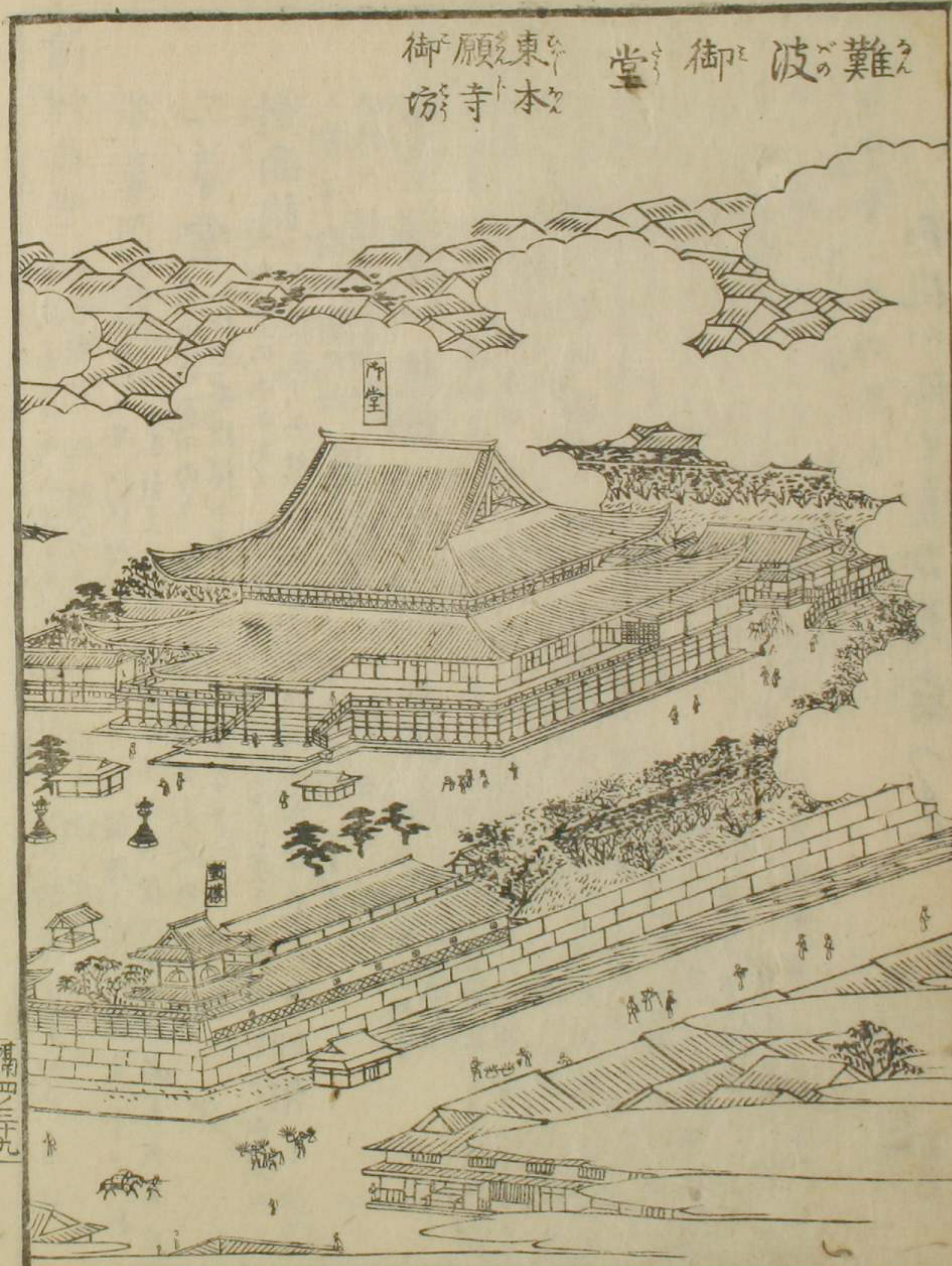
本教さ廿八代蓮如上人明應四年石山本願寺に建立しつひに化益
しゆゆ八坂市中及び小橋の村里の門徒多く尊信は隆之
第十二代蓮如上人は津堂を再興しつひに初ら城内徒多り
元禄年中裏町に遷す第六十向安去町に十向に買取く境内
は又享保九年三月大坂大火に毀焼其後南の方本町原の
人等が救へり寺内に今のみく津堂の莊嚴作はる街は
災難に画ら多く法橋持世名と稱し一常系路の老
系前部か一毎年七月十七日より十九日すく系師奉ふり
體籠と移し津堂に於て門徒に足せしは是返例之築地
の内の巡りみは津中の若洲建るは築地の外より迎年
船り松と多く植く系橋よりて

西風小何ぞ自か名庭つと

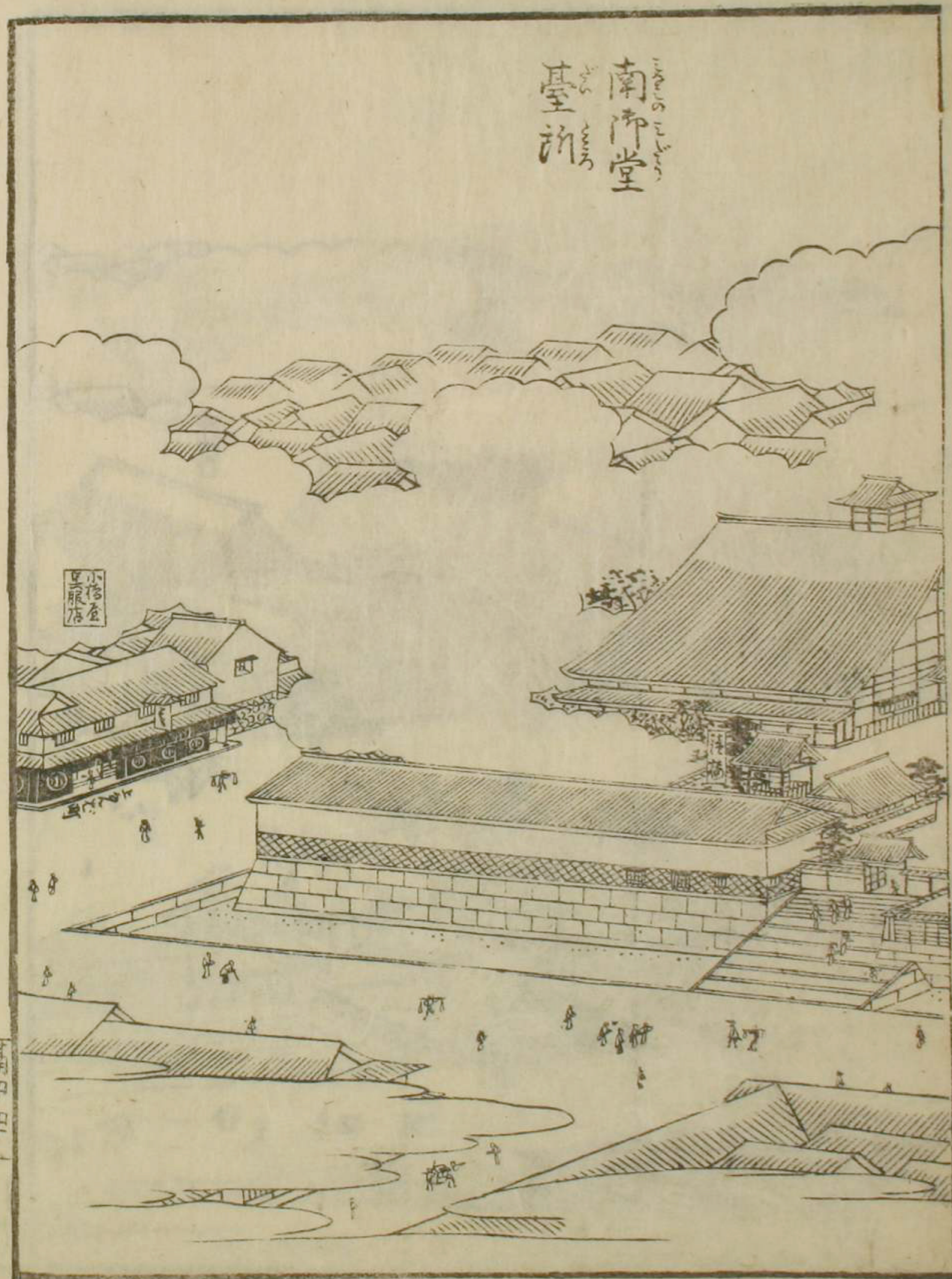
三編
宗園



御願東堂 波難
 坊寺本



南澤堂
臺所



難波御堂

御堂藤久太市町あり裏御堂又南澤堂も此後

奉尊阿弥陀佛

安福の化長三々寸計兩脇檀小祖師親密聖人茶位上人の

對面所

御堂の南

書院

對面所の

鐘堂

御堂の異

鼓樓

御堂の長

唐門

御堂の茶

茶所

唐門の内あり

窟門

御堂の後方の

中興第十二代教上人 將軍家より台令瓜紫くくは地味賜を難波
御坊と称し初文禄年中より修所を町目ありて後意御坊と
ひいしとん 慶長の末に地味御堂と移され南北に御堂と
艶齋ありて此に比類ありて繁植の石多くて北の御堂より
茶位上人映山紅山脚圖と多く極く盛んなる色爛熳なり
住家の枝が輝く御中の壯觀あり

享保十年己十月に此の御堂一
東澤門跡御下向の時里村昌繁を以てなりきる 程前一首が書

足門のふよりきた御恩のわが痛ふくく庇生海後年

繕もこれぬちうひれ細ふれいちと御前へはうりせふや

物の名もふよりて古器に御益もいひあはつことし

全

綱巻
貞柳

井上

福四十一

上難波
仁徳天皇社

新皇
今とあか
民ののちの
ちや
の
たん
後多度

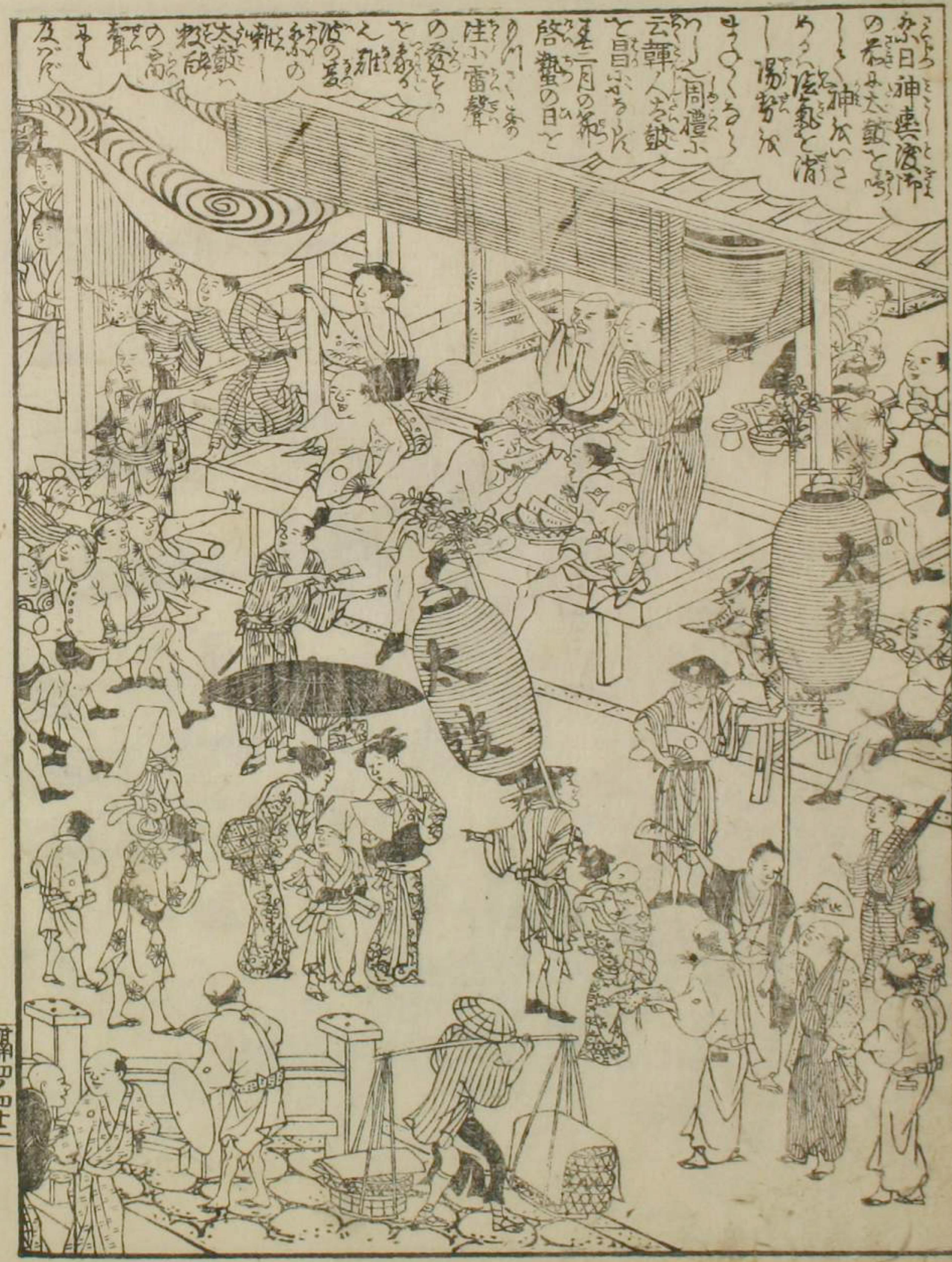


井上

大宮の宮
乃
云乃
天
多
正三位知兼



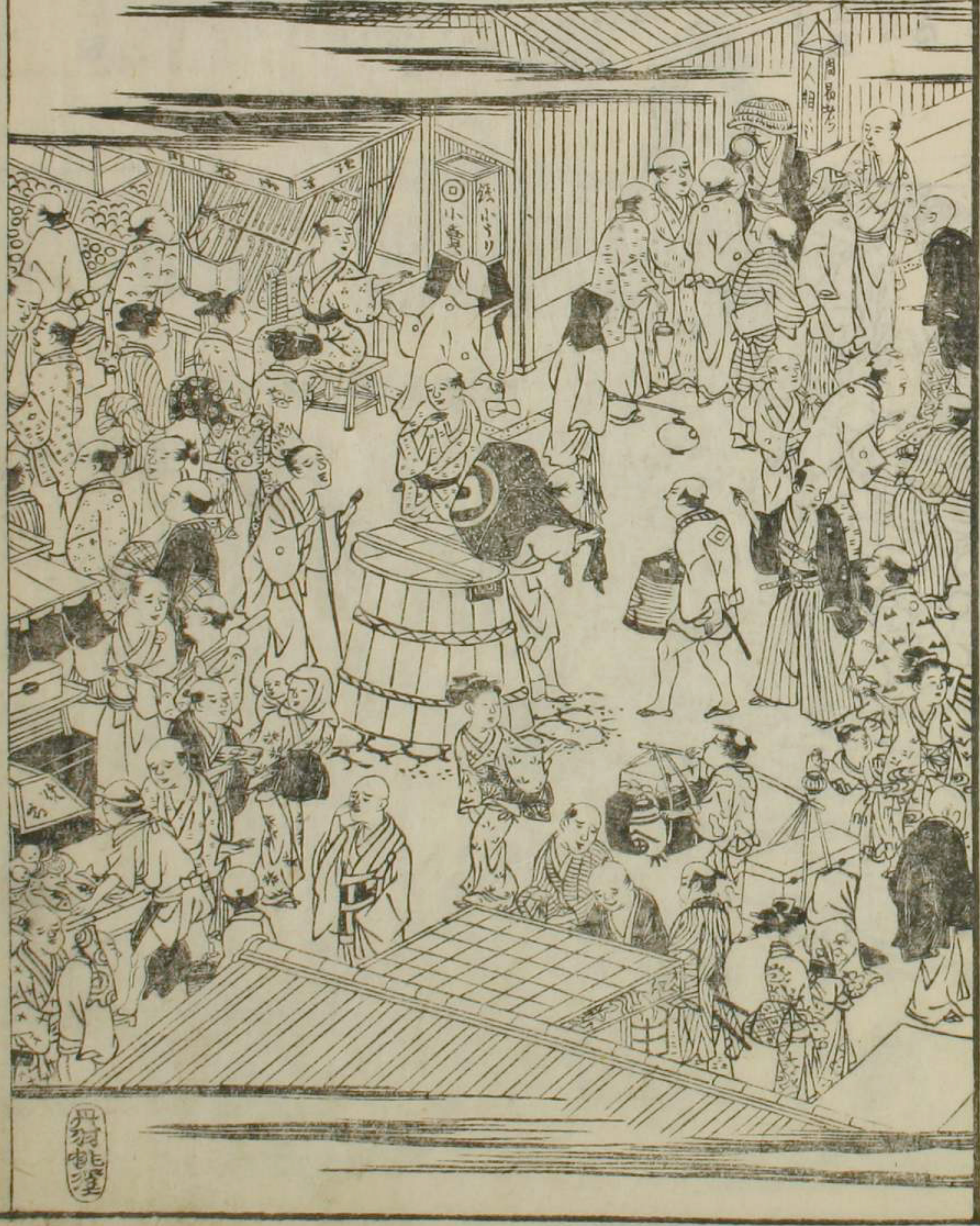
井上



桶四十三

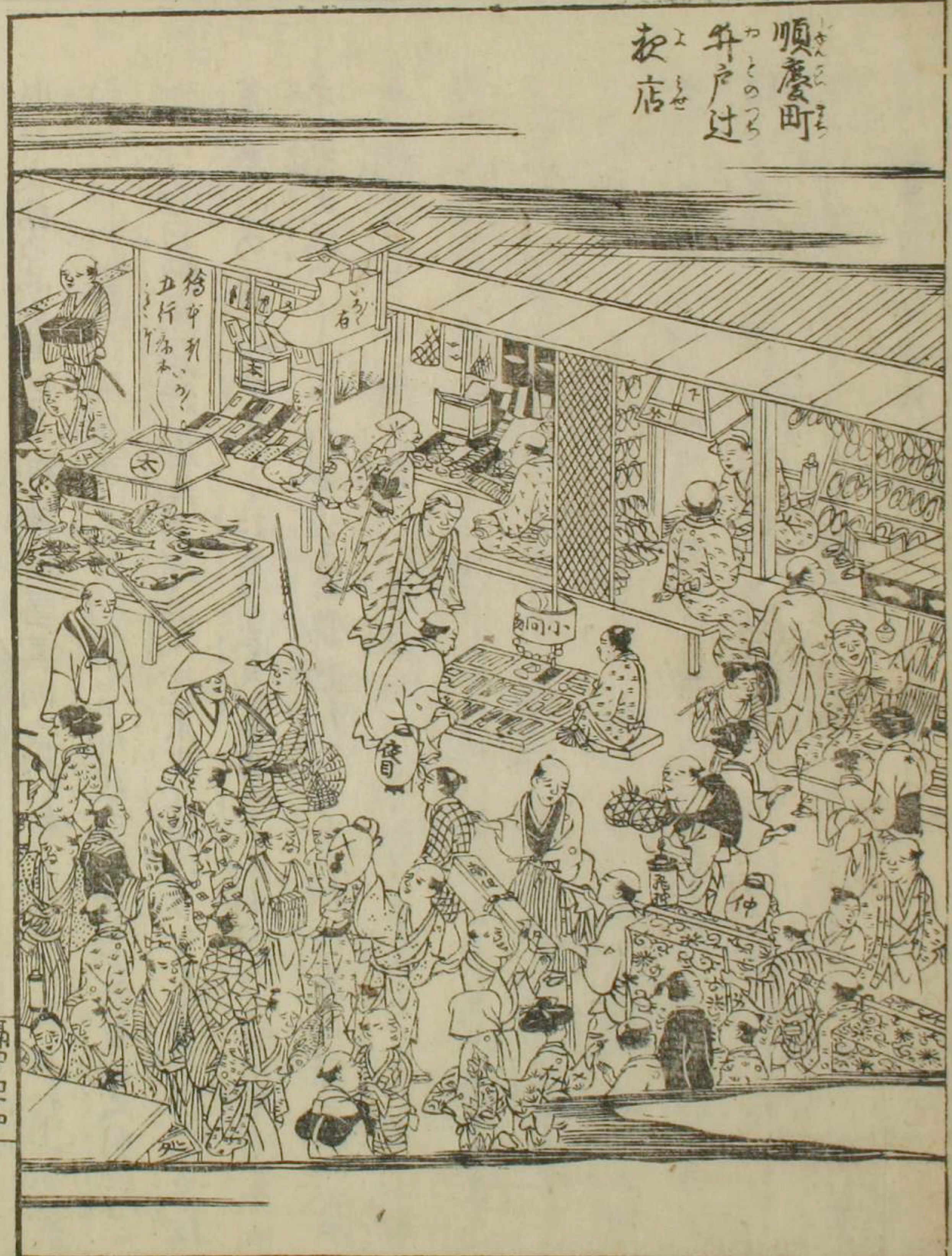
臥杵衣砧のふく其沢其神棚佛器其向六州履足駄五多駄日和下駄袴套
 紙舄屨釘靴の交陶器店其今利焼下都焼六多湯若瓶寶山天目行平
 船印花白甌尾張焼樹陶の諸品又也茶店其多漆くふく五月の以の早松
 葺寒冬の子魚宗羊すても双立く賣賣器置一飛を川の流と早く年の
 市は為文振り〜〜川葦菜の飾物何や極賣極儀裏白鎗葉片店
 其新替越打羽子板子鞠門松賣梅匂ひ香こかくまみしるい年玉也
 のか〜〜朧月標勝〜〜桃の花をか海ひ柳桜松をなせて涕と〜〜
 浮生の雜店紙雜衣裳雜雜の市殿左近橋右近橋市隨身湯土の無火煙々
 たり扱端午の若其深幟紙幟八幡太布衣内長楨光朝比奈橋其慶年若金
 時旗持ま威風凜々〜〜鎗もる其其の太布も〜〜並其の曲也其燈籠切子
 燈店其陽其の菊の花万菊子葉不多〜〜是く瓜月んとく新所橋とひ〜〜
 曉の雉爪園もあり其市八神農氏より肇く立りひ本朝のむ〜〜之内裏
 の市時朱雀門の官市もあれ〜〜と其〜〜

文 焼 糸 糸 糸
の 糸 糸 糸
茶 糸 糸
心 糸 糸



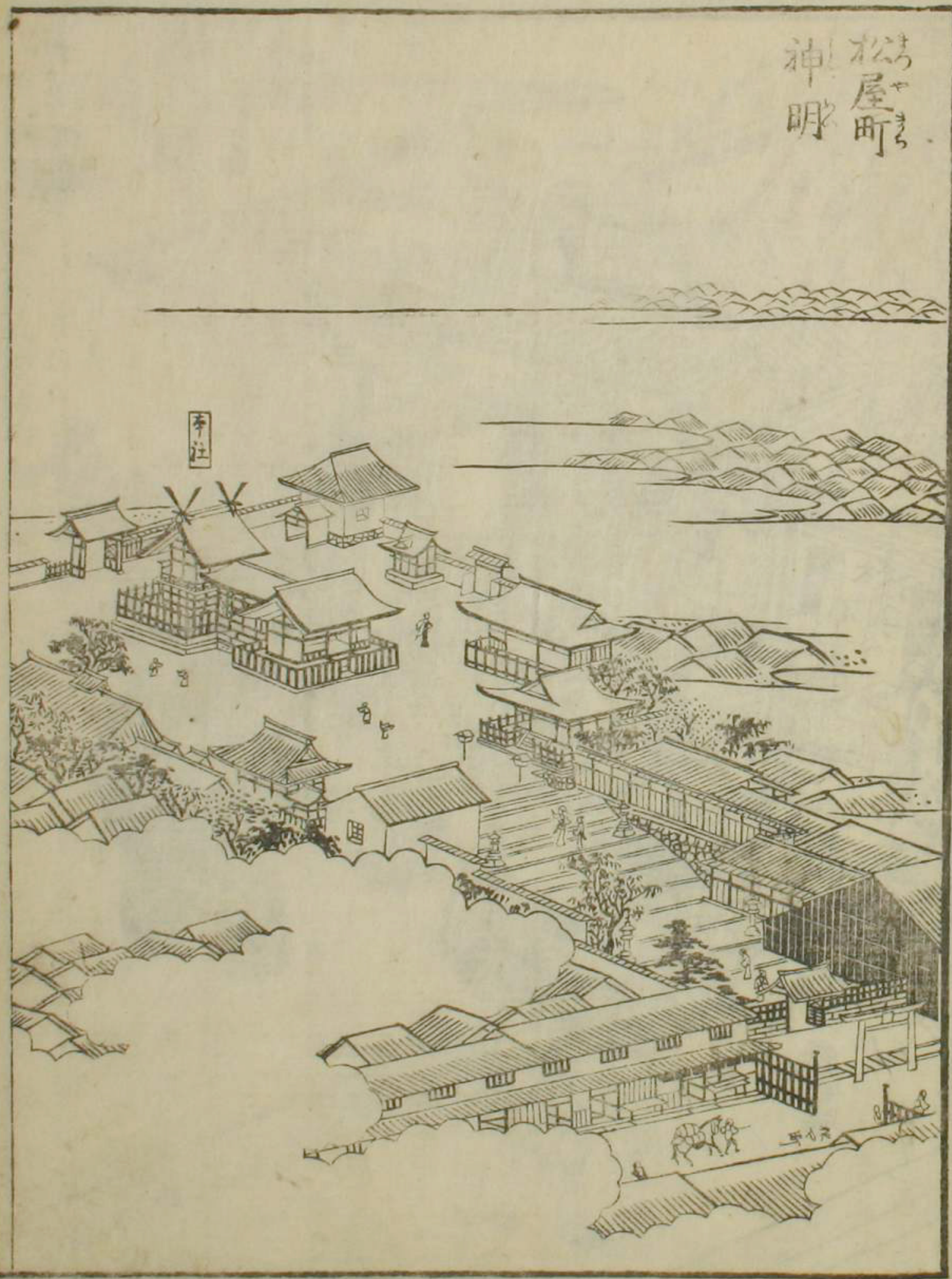
丹羽能登

順慶町
井戸過
夜店



禰四十四

松屋町 神明



油巻地蔵

安堂寺町を町目の欄干に石佛の首油を懸け故に名あり
 抄津志曰日本紀小足之方安堂寺の石像之背面小正十一年
 安堂寺の銘ありとゆふ今も是の原に小正十一年

難波系師

塩町心舟橋車町小あり本尊系師佛に弘法大師の像あり
 長八寸三寸高台の佛院あり難波系師堂と號し年久
 しく荒廢する乃んを本尊系師とて法會あり

現成化

安堂寺毎月八日十二日龍系師とて法會あり
 此花井ありむらさき唐花あり巡り小正葉の所と生れ
 今付おとんとて此と名あり

梅檀本

梅檀本筋小太本の梅檀あり故に名とれ又其側小正あり
 沖功皇后御船とて埋し地之船の形也ありとて詳あり

朝日神明宮

松屋町筋安堂寺町の小あり世に運糧社とて源義経
 王子祠といふ然も神事祀小足あり古き神一王子あり則ち照太神
 あり初め社に東向の後世西向あり松屋町表門といふ所は

寶泉寺

安堂寺町原松屋町あり
 女傍持合あり
 聖徳太子の御代太子の乳母薙髮の後四天王寺
 の南小正を繼ぐ位あり後世觀音とて覺如比丘尼

本尊正觀音

再興あり
 谷町條王本町小あり和勝院と号し本尊觀世音に去日の能



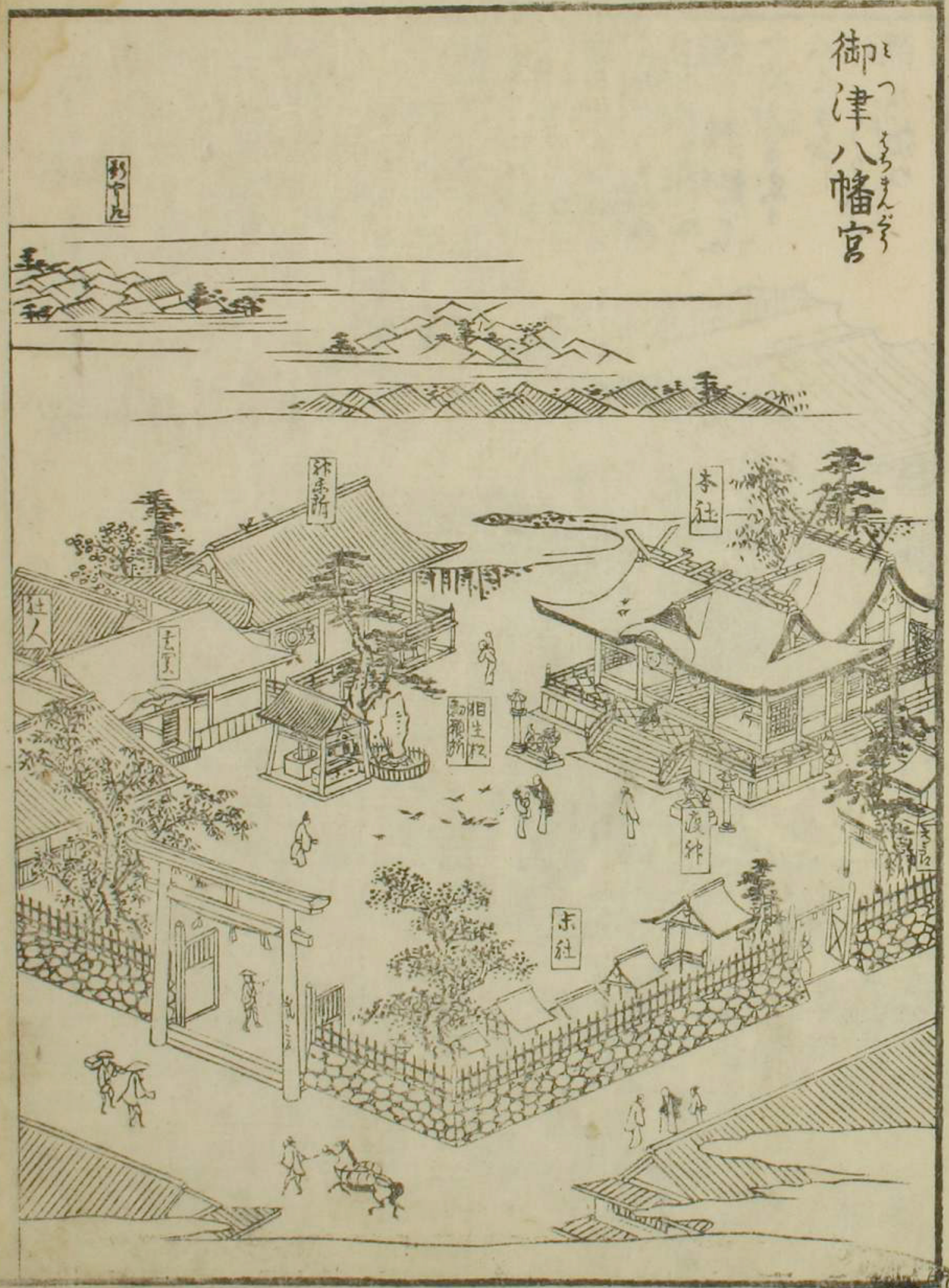
天



心齊橋筋
吳服店

橋四八

御津八幡宮



御津

庚申塚 上野町の盛りの紅毛の墓あり人あり
 寺傳清水 谷町條地蔵院あり地蔵多し
 頼焼地蔵寺 相模園林村あり永仁年中鎌倉茅原里助をまじり
 その人の歎あり地蔵多し信々毎日盆倉田畑運ぶるも初
 とる徳小供に助をまじり信々怒り下女頼焼地蔵寺に
 拍盃及び人の女怒り信々信々信々信々信々信々信々信々
 あり地蔵多し奇特あり信々信々信々信々信々信々信々信々
 あり故小せみ身代頼焼地蔵寺あり信々信々信々信々信々
 菩薩とせ小賞とくるとく

三津八幡宮 放生会八月十五日

系神應神天皇 勸修の年遠くは八幡宮の時味原郷

八幡山神社 勸修の年遠くは八幡宮の時味原郷

三津寺 三津古筋あり古義真言宗

本尊十一面觀世音 此の地長八尺八寸寺説云行基菩薩向基

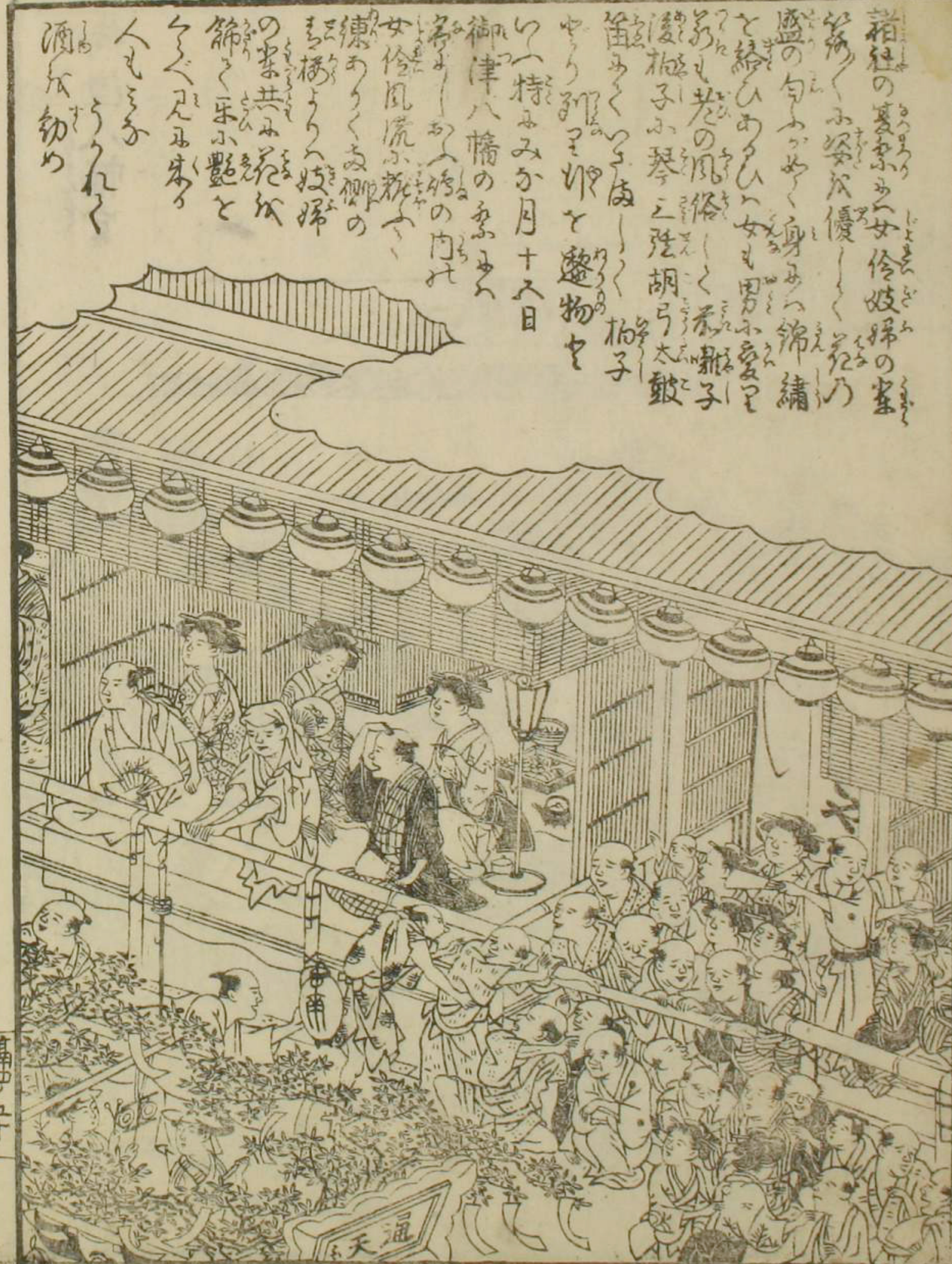
三津八幡の社宮寺といふ説あり其證詳々信内小本の楠あり
 火災小枝葉焼亡に



新の物さぐり
 揚は先の
 一叔妻と
 後波津の
 繁る
 ぬる魚

甚多人も
 潮の
 潮更

六羽排屋



箱社の夏祭り
 女伶妓婦の基
 盛の匂ふ身み綿績
 と結ひの女も田か
 おも老の風俗
 後松子小琴三弦胡弓太鼓
 笛みくすは
 やり御三叶と盛物
 の一持みみか月十八日
 御津八幡の系
 女伶風流
 徳ありく
 の共ふ
 飾る小艶と
 人とも
 酒の初め

梅四子

天通

八冊之内

